

南洋輸入材のナガキイムシ科

野 淵 輝⁽¹⁾

Akira NOBUCHI: Platypodidae found in Imported Tropical
Timbers from South East Asia and Others, (Coleoptera)

要 旨: 南洋材が輸入されはじめてから、すでに20数年が経過し、この間、輸入材に付着したまま日本の港で発見されたキクイムシ類の種類は350種にも達している。

筆者は、これらの種類のうち種名の決定したナガキイムシ科の検索表、記載を発表する。ここで取り扱った種類は *Crossotarsus* 10種, *Platypus* 42種2亜種, *Biocis* 1種, *Spathidicerus* 1種, *Diapus* 6種, *Diacavus* 7種1亜種の計6属67種3亜種である。

はじめに

戦後まもなく南洋材が輸入されてから、年々輸入量が増加する傾向にある。大蔵省の日本貿易月報によると昭和49年は経済的理由もあって南洋材の輸入量が前年の93.1%となったとはいえ、2,099万 m³であり、総木材輸入量の44.0%をしめている。

当初、フィリピン、サバにほとんど限定されていた出材地がインドネシア、サラワク、カリマンタン、ベトナム、ソロモン群島、パプア・ニューギニア、ニュージーランド、アフリカまで拡大されている。そして、これらの98.5%が丸太のまま輸入されているため、キクイムシ類が生きたままで日本の各地の港に到着し、約350種にもぼる種類が検疫の際に発見されている。もちろん、これらの多くは日本にいない種類で侵入害虫として定着する可能性が高く、木材検疫上の大きな問題となっている。

これらの虫は単に原記載だけでまとまった報告や検索表もなく植物検疫官にとって同定が全く困難な状態にあり、解説書の作成が強く要望されている。一方、東南アジア地域においても、キクイムシ類は森林害虫として重要なものであり、熱帯林業技術協力に関連して分類同定を早急に進めておく必要がある。

このような背景にあって、筆者は佐藤覚氏が収集し、Karl E. SCHEDL 教授の同定した標本を検討する機会を得た。輸入材から発見された種類は産出地のキクイムシ相の一角にしかすぎないが、ナガキイムシ科の亜科、属、種への検索表の作成と各種の再記載を行い、今後の研究の資料としたい。

種群までの検索表は SCHEDL⁹⁾に従い、形態的特徴の表現にあたっては著者によって主観的なものが入り均一ではないが、この報告では亜科あるいは属内での相対的な表現を用いた。

この科の昆虫は雄が穿入孔近くにいて、深く材中に穿入している雌より採集される機会が多く、また、種の特徴も雄の方が明らかのため、検索表、記載は雄を主体とした。各種の図は大野⁹⁾によってすでに発表されているので省略した。

標本の検鏡にあたって種々ご便宜をたまわった 横浜植物防疫所調査課、池上雍春前課長、小泉憲治課

長，尊田望之管理官ならびに害虫係の各位，佐藤寛元東京支所長，名古屋植物防疫所大野静男管理官に厚くお礼申しあげる。

ナガキクイムシ科 Platypodidae

ナガキクイムシ科は主に熱帯に分布し，約 1,000 種が記載されている。この虫はクイムシ科に近縁で，外部形態，生態ともに類似しているが，体が細長く，頭部が大きく露出し，跗節の第 1 節が極端に長く，それより先の節の合計より長い，あるいは同じ長さで，すべて ambrosia beetle である。

亜科の検索表

1. 前肢基節窩はお互いに接する。…………… 2
 - 前肢基節窩はお互いに離れる。前肢脛節の外側面は両性とも竜骨状の横皺列をそなえる。…………… Diaporinae 亜科
2. 複眼は円形ないし短卵形で強く隆起する。…………… 3
 - 複眼は楕円形で弱く隆起する。前肢脛節の外側面は両性とも竜骨状の横皺列をそなえる。…………… Periommatinae 亜科
3. 前肢脛節の外側面は雄では竜骨状の横皺列をそなえ，雌では横皺列が全部あるいは少なくとも先端部において小顆粒群におきかえられる。下唇鬚は 1 節からなる。…………… Crossotarsinae 亜科
 - 前肢脛節の外側面は両性とも横皺列をそなえる。下唇鬚は 2 節からなる。…………… Platypodinae 亜科

Crossotarsinae 亜科

この亜科は 5 属からなるが，輸入材からは *Crossotarsus* 1 属が発見されている。

Crossotarsus CHAPUIS 属

種の検索表（雄）

1. 翅鞘はほとんど水平で後方は平板状に突出し，その下方はほとんど垂直となり光沢を有し，わずかに斜面部の痕跡を残す。中胸側板は側縁近くに後方に向いた瘤起を，胸部第 5 節腹面には瘤起をそなえる。後肢基節は大きく，シャベル状に後方に長く突出する。…………… 2
 - 翅鞘は後方においてゆるく傾斜し，斜面部は中高でほとんど光沢を欠く。中胸側板，腹部第 5 節腹面には瘤起を欠く。基節は中庸で，後方はほとんど突出しない。…………… 3
2. 翅鞘後方平板部の列間部は点列部よりはるか後方に突出し，梯形となる。第 2，3 列間部は第 1 列間部よりはるか後方に延びる。第 7～9 列間部よりなる後側角の突起は細く長い。体長は 7.1 mm 内外。…………… *Crossotarsus lecontei* CHAPUIS
 - 翅鞘後方平板部の列間部は点列部よりわずかに後方に突出し截断される。第 2，3 列間部は第 1 列間部より短く終わる。第 7～9 列間部よりなる後側角の突起は幅広く短い。体長は 6.9～7.2 mm。…………… *Crossotarsus laratensis* BEESON

3. 腹部第1節腹面の中央部には長突起をそなえる。…………… 4
 腹部第1節腹面には長突起を欠く。…………… 5
4. 一体は大きく細長い。翅鞘の会合線近くの点列部は不明瞭。列間部は斜面部の前方から竜骨状に隆起し、後方に狭まりやや密な剛毛列をそなえる。斜面部先端の弯入部には突起を欠き、後側角は長く鋭く長三角形に突出する。腹部の刺は長く、第5節まで達し、先端は上方に直角に弯曲する。体長は3.1~3.8 mm。…………… *Crossotarsus simplex* MURAYAMA
 一体はやや小さく太短い。翅鞘の会合線近くの点列部は不明瞭な条溝か点刻列となる。その他の点刻列も明瞭に認められる。翅鞘の列間部は斜面部の前方から丸く隆起し、わずかに後方に狭まり、疎な剛毛列をそなえる。斜面部先端の第2列間部には小突起をそなえ、後側角は弱く、鈍く突出する。腹部の刺はやや短く、第3腹節の後縁で終わり、先端は上方に弯曲しない。体長は3.1~3.3 mm。…………… *Crossotarsus nitens* CHAPUIS
5. 斜面部は強く中高、後端の両側は突出しない。…………… 6
 斜面部はわずかに中高、後端の両側は突出する。…………… 7
6. 翅鞘の斜面部は急に傾斜し、後側縁はほとんど平滑な竜骨状となり凹みを欠く。後縁中央部には細い弯入部があり、その内縁には歯を欠き、側縁は後方に反転する。体長は3.2 mm 内外。…………… *Crossotarsus lacordairei* CHAPUIS
 翅鞘の斜面部は徐々に傾斜し、後側縁は鋸歯状をなし上方に小さな凹みをそなえる。後縁中央部には幅広い円形の弯入部をそなえ、その内縁には小歯をそなえる。側縁は反転しない。体長は3.5 mm 内外。…………… *Crossotarsus emancipatus* MURAYAMA
7. 翅鞘の第1, 3, 5, 7列間部は斜面部の上縁で他の列間部より長くかつ高くなる。体長は3.7 mm 内外。…………… *Crossotarsus octocostatus* SCHEDL
 翅鞘の個々の列間部は同じ長さで同じ高さ。…………… 8
8. 一体は大きい(7.1~7.3 mm)。翅鞘の斜面部は不規則な点刻をそなえ、条溝、顆粒を欠く。…………… *Crossotarsus rengetensis* NIJIMA et MURAYAMA
 一体は小さい。翅鞘斜面部の点列部は明瞭な条溝となり、列間部には顆粒列をそなえる。…………… 9
9. 一体は大きい(3.4~4.3 mm)。翅鞘の斜面部の後側角の突起は強く、下後方に突出するが、背面から明らかに認められる。後縁の弯入部には小歯状突起をそなえる。列間部は斜面部の上縁近くから強く狭まり、隆起し、その後方は皺肌状をなし光沢を欠く。…………… *Crossotarsus externedentatus* FAIRMAIRE
 一体は小さい(2.8~2.9 mm)。翅鞘の斜面部の後側角突起は弱く下方に突出し背面からほとんど認められない。後縁の弯入部には歯状突起をそなえない。列間部は斜面部の上縁から後縁まで等幅、等高。…………… *Crossotarsus saltator* SCHEDL

種 の 記 載

Crossotarsus lecontei CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 24, 25, 60~61 (♂, ♀)

体長は雄 7.1 mm, 雌 7.8 mm。暗茶褐色, 複眼は黒色, 光沢は強い。

頭部は平坦, 中央縦線はやや長く, その上方は凹む。表面は不整形で密に印刻され粗造, 短毛におおわれる。

前胸背は幅広く, 幅よりわずかに長い。側縁は中央部前方から後縁にかけ浅くえぐられ, 弯入部の前角は角ばる。背面は細かい点刻をそなえるが, 側方のものは大きく密になる。前方側方には短毛を生ずる。中央縦線は短くほとんど基縁に達する。

翅鞘は水平, 長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁はほとんど平行し, 後方でわずかに狭まる。点列部は狭く凹んだ点条をなし, 中央部は浅く凹んだ点列状となる。列間部は幅広く, わずかに隆起し明瞭な点刻をそなえるが, この点刻は後方に小さく疎となり, 後端はそれぞれ葉片状に突出するが, 第 7~9 列間部は 1 つの葉片になり三角形状に強く突出する。第 2, 4 列間部は基方で広がるが基縁に達しない。斜面部は非常に狭く, 葉片状突起の下方にわずかに認められる。腹部第 5 節の中央部のやや前方には 1 瘤起をそなえる。

雌の頭部は両触角着生部を結ぶ線より頭蓋にかけ幅広く深く凹み, その上縁は角ばる。側縁は上方に大きな弯入部を有し, 弯入部の上縁は竜骨状となる。中央縦線は長く前顔 (epistoma) から頭蓋に達する。表面はほとんど無点刻, 無毛で前顔のみに明瞭な点刻と短毛を生ずる。触角の柄節は基方が大きく下方に延び長三角形状をなして尖り, 先端は中間節の着生部を越えて延び 2 歯となる。前胸背の点刻は雄より明瞭。翅鞘はより細長く, 長さは幅の 2 倍に近い。側縁の後方は徐々に弱く広がる。基縁近くに横隆起線をそなえる。表面の後方は点列部が不明瞭で粗造となり短毛をそなえる。斜面部は徐々に傾斜し, 長三角形。後縁は葉片状となる。後肢基節の葉片状突起は短い。腹部は瘤起を欠く。

寄生樹種: ラワン。

分 布: フィリピン。

Crossotarsus laratensis BEESON

BEESON, 1937, Ind. For. Rec. N. S., (3) 3: 56~57 (♂, ♀)

体長は雄 6.9~7.2 mm, 雌 7.6~7.8 mm。暗茶褐色, 複眼は黒色, 光沢は強い。

頭部は平坦, 中央縦線付近は浅く凹み, 前顔上方にハの字形の凹みをそなえる。表面は全面に密な不整形の印刻をそなえ, 粗造で長毛を生ずる。触角の柄節は前方に膨らみ, 基方は下方に突出する。

前胸背は幅広く, 長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍, 側縁は中央部で浅くえぐられ, 弯入部の前角は角ばる。背面は細かい点刻をそなえるが, 側方の点刻は大きく密となる。中央縦線は短く基縁近くまで延びる。

翅鞘は水平, 長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍, 側縁はわずかに後方に狭まり, 基縁近くに横隆起線をそなえる。点列部は狭く, 点条をなし基方ではやや深く凹む。列間部は幅広く, 基方で隆起する。表面は後方ほど小さくなる点刻をそなえる。第 2, 4 列間部は基方で広がり基縁に達しない。それぞれの列間部は後端で方形に突出し, 短毛をそなえるが, 第 7~9 列間部は共通の三角形突起となり強く突出する。斜面部は非常に

に短く横に凹み平滑。腹部第5節は中央の前方に瘤起を有する。

雌の頭部は両触角着生部を結ぶ線から頭蓋にかけ深く凹み、上側縁に大きな弯入部をそなえる。弯入部の上・下側は竜骨状をなし、上縁は角ばる。表面は無点刻であるが、前顔に剛毛の生じた明瞭な点刻をそなえる。弯入部の下方に密な剛毛をそなえ、弯入部下側方、凹陷部上縁には下方に曲った密な列状の毛房をそなえる。触角の柄節基方は下方に強く延びた密な剛毛を、内側縁には内方に弯曲した毛房をそなえ、先端は2歯状に突出する。前胸背の点刻は雄より明瞭。翅鞘は細長く、後方でゆるく狭まり弱く傾斜する。列間部の点刻はより明瞭。第3, 5列間部は基部で隆起する。後方の点列部は消失し、粗造となり短毛を密生する。斜面部は短く、後縁は反転する。後肢基節の葉片状突起は短い。腹部には瘤起を欠く。

寄生樹種：グバス材。

分 布：フィリピン、ラクト島。

Crossotarsus simplex MURAYAMA

MURAYAMA, 1925, Journ. Coll. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 15(4) : 231~232 (♂, ♀)

体長は雄3.1~3.8 mm, 雌3.8~4.2 mm。茶褐色、複眼は黒色、翅鞘は基部、会合線両側、側縁、後部を残し黄褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦、中央縦線はやや長く周辺はわずかに凹む。前顔上方は横に浅く凹む。表面は鮫肌状で明瞭な浅い点刻をそなえる。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は中央部で深くえぐられ、弯入部の前角は角ばる。背面は微細な鮫肌状で細かい点刻をそなえる。側前方の点刻は密になる。中央縦線は短く基縁に達せず前方で広がる。

翅鞘の長さは幅の約2倍。点列部は中央部で不明瞭な点刻列をなすが、基方は狭く凹んだ点条をなし、後方は斜面部の前方から徐々に条溝をなして凹む。第1点列部は全体に凹む。列間部は幅広く、斜面部前方から斜面部にかけ狭まり、ほとんど無点刻。第1列間部は狭い。第3列間部の基方は徐々に狭まり細点刻をそなえる。第4列間部は基方に狭まり基縁に達しない。斜面部はゆるく傾斜し、中高、後側角は鋭く長く突出する。後縁は弧状に凹む。点列部は幅広く凹み、列間部はほぼ後縁近くまで竜骨状をなし、剛毛をそなえる。腹部第1節は長い突起を有し、その先端は上方に鋭く尖る。

雌の頭部はほとんど平坦かわずかに凹み、点刻は細かい。前頭はほとんど無毛。前胸背の点刻は細かい。翅鞘の第3列間部は基方に小顆粒をそなえる。斜面部の後側角は短く突出し、点列部は雄より狭い、列間部は幅広く鮫肌状、隆起するが竜骨状とならない。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：日本、朝鮮、支那（台湾）。

Crossotarsus nitens CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 25, 77~78 (♂); SCHEDL, 1971, Oriental Insects, 5/3 : 387 (♀)

体長は雄3.1~3.3 mm, 雌3.3~3.6 mm。茶褐色、複眼は黒色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦、中央縦線は短くわずかに凹む。表面は複眼の下方から触角着生部内方にかけ印刻される以外ほとんど無点刻、剛毛を疎に生ずる。

前胸背の長さは幅とほとんど同じ。側縁は中央部後方が浅くえぐられ、その前角は角ばる。背面は微細

に点刻されるが、弯入部前方、前縁は明瞭に点刻される。前縁には剛毛列をそなえる。中央縦線は短く基縁に達せず、前端は2分する。

翅鞘の側縁は中央部の後方までわずかに広がり、その後弱く狭まる。長さは幅の約 $1\frac{3}{4}$ 倍、後方はゆるく傾斜する。点列部は細かい点刻列からなるが、後方は凹み、点条となる。列間部は幅広く、わずかに中高で不明瞭な細点刻をそなえる。第2, 4, 6列間部は後方に剛毛をそなえる。斜面部は非常に幅狭い新月形で弱く凹み、後縁は丸く凹み、外角内方に小突起と会合線両側に小突起をそなえる。腹部第1節中央には後方に向いた長い突起をそなえる。

雌の翅鞘はやや長く、微細な皺肌状をなす。列間部は後方で凹まず、点刻はやや明瞭、第3列間部の基部には小顆粒群をそなえる。後方はいずれの列間部も疎な剛毛をそなえる。斜面部は背面と区別できず、ほとんど凹まない。外角は雄のものより幅広い突起をそなえ、その内方は波状をなす。腹部第1節の突起は短い。

寄生樹種：ラワン。

分 布：スル群島、サバ、カリマンタン、マラヤ。

Crossotarsus lacordairei CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 24, 25, 85~87 (♂, ♀)

体長は雌雄 4.2 mm。暗赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は黒褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は短い。表面は皺肌状、剛毛を疎にそなえる。上方には楕円形の大きな点刻を、下方には細かい点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅とほとんど等しい。側縁は中央部後方を中心に浅くえぐられ、弯入部の前角は角ばる。背面は浅いが明瞭な点刻を密に、側方では大小2種の点刻をより密にそなえる。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁は後方に広がる。点列部は狭く疎な点刻列からなり、基部で凹む。列間部は幅広く小点刻を疎にそなえる。第2, 4列間部は基縁に達せず狭まる。第3列間部は基方で広がる。斜面部は垂直に近く截断されほぼ円形で、上縁は丸まる。後縁の会合線部は細長く凹み、その弯入部の側縁は後方に反転する。側縁中央部から後縁までは竜骨状に角ばる。表面はわずかに中高、会合線は隆起する。点列部は狭く凹む。列間部は弱く隆起し、小顆粒と寝た短毛をそなえる。

雌は黄褐色。頭部の剛毛は雄よりも多く長い。前胸背の点刻は細かい。翅鞘は雄より扁平で細長く、後方 $\frac{1}{3}$ から徐々に狭まる。点列部は細かく疎な点刻からなり不明瞭、基方で弱く凹み、後方では徐々に傾斜し粗造となり短毛をそなえる。斜面部はほぼ新月形、竜骨状の縁取りを欠く。表面は弱く凹み短毛を生ずる。

寄生樹種：クウン。

分 布：ニューギニア、ニューブリテン、ニューアイルランド、ビスマルク島、アルー島。

Crossotarsus emancipatus MURAYAMA

MURAYAMA, 1934, Journ. Fac. Agr. Coll. Hokkaido Imp. Univ., 35 : 138~140 (♂, ♀)

体長は雄 4.0~4.2 mm, 雌 3.9~4.5 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は短く、その付近は凹む。表面は不規則な大きさの点刻をそなえ、その間隙は鮫肌状。前顔の両側には大きく円い点刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅とほぼ等しい。側縁は中央部の後方を中心にやや深くえぐられている。背面は大小2種類の点刻におおわれ、側方の湾入部から前方でははなはだ密に点刻される。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の長さは約 $1\frac{1}{5}$ 倍。側縁はほとんど平行、中央部から後方はわずかに狭まり、その後丸く狭まる。点列部は疎なやや大きい点刻の列からなり、弱く凹み、基方ではやや強く凹む。第1, 2と第3, 4点列部はお互いに連絡する。列間部は微細かつ疎に点刻される。第2, 4列間部は基縁に達しない。第3列間部は基方で広がり第1, 5列間部と連絡し隆起する。斜面部は中高、丸く傾斜する。側縁は鋸歯状。後縁は丸まるが中央に大きな湾入部をそなえ、その上方片側に2鋸歯をそなえる。点列部は広く深く凹んだ条溝となる。列間部は狭く隆起し、小顆粒と剛毛列を生ずる。

雌の前胸背は雄よりわずかに長い。翅鞘はやや細長、後方で弱く狭まる。背面は後方で弱く傾斜して低くなり剛毛をそなえる。点列部の点刻は後方で大きくなる。第3列間部の基部には小顆粒をそなえる。斜面部はやや平坦で雄より急。側縁には小顆粒をそなえる。後縁は弱くへの字形に凹み、会合線は割れる。表面は小顆粒と剛毛を疎にそなえる。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：日本（九州）、支那（台湾）。

Crossotarsus octocostatus SCHEDL

SCHEDL, 1935, Philip. Journ. Sci., 56 : 398 (♂, ♀)

体長は雄 3.8 mm, 雌 3.9 mm 内外。茶褐色。複眼は黒色、翅鞘の後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部は中央縦線に沿って丸く凹む。中央縦線はやや長く隆起し、下端は膨らむ。表面は楕円形の大きな点刻を密布する。前顔付近はやや小さな点刻を疎にそなえ、光沢が強い。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。側縁はほぼ中央部で浅くえぐられ、湾入部の前角は竜骨状。表面は前半に小点刻をやや密にそなえ、側方の湾入部より前方でははなはだ密に点刻される。中央縦線は短く後方に細くなり基縁に達せず、前端は広がる。

翅鞘の長さは幅の約2倍。側縁はほぼ中央部で幅広く、前後に狭まる。点列部は点刻列からなり基方、後方で凹み点条となる。第1, 2と第3, 4点列部はそれぞれ基方で連絡する。列間部は微細な点刻を不規則にそなえる。第1列間部は狭い。第2, 4列間部は基縁に達しない。第3列間部は基方でやや隆起し、第1, 5列間部と連絡する。後方では第2, 4, 6, 8列間部が隆起して刺状に突出し、光沢が強い。他の列間部は傾斜する付近より低くなり鮫肌状で光沢を欠く。翅鞘の突起部の後方はゆるく傾斜し、光沢を欠き剛毛と小顆粒をそなえる。斜面部は細長い新月形。上側縁は丸く隆起し、後側角は長三角形に突出する。表面は滑らかで光沢が強い。

雌の頭部の点刻は小さく、雄より疎。中央縦線は短い。前胸背はやや短い。翅鞘は雄より少し長い。点列部は微細な点刻列からなる。第3列間部は基方に小顆粒をそなえる。後方は突起を欠き、粗造で鮫肌状、剛毛をそなえる。斜面部はやや幅広い新月形、後側角は鈍く尖る。表面は鮫肌状、小点刻と剛毛をそなえ、後縁近くは滑らかで光沢を欠く。

寄生樹種：カバス材。

分 布：フィリピン。

Crossotarsus rengetensis NIIJIMA et MURAYAMA

NIIJIMA & MURAYAMA, 1925, Journ. Coll. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 15(4) : 199, 208~209, 221, 223 (♂, ♀)

体長は雄 7.1~7.3 mm, 雌 8.2 mm。黒褐色, 複眼は黒色。光沢は強い。

頭部の前面は弱く圧せられ, 前顔は横に幅広く隆起する。中央縦線は隆起し, 長く頭蓋まで延びる。点刻は丸く大きく密で剛毛をそなえるが, 中央部下方では小さく, 側方では細長い剛毛となる。前顔はほとんど無点刻, 左右に各 3 個の大きな点刻をそなえる。複眼上方には毛房を生ずる。

前胸背の長さは幅とほぼ等しい。側縁は中央部より後縁にかけえぐられ, 弯入部の前角は角ばる。背面は微細な点刻を密にそなえるが側方の点刻は大きく疎。中央縦線は短く凹み, 浅く不均一な大きさの小点刻からなる小さい心臓形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 2 倍。側縁は前方 2/3 が広がり, その後ゆるく狭まる。点列部は細かい点刻列からなり, 基部で凹む。列間部は中央から後方に広がり, 微細な点刻をそなえる。第 1 列間部は狭い。第 2, 4 列間部は中央から基方にかけ狭まらないが, 基縁には達しない。第 3, 5 列間部は基方に狭まりかつ高まり, 基縁で第 1 列間部と連結する。斜面部は背面から徐々に丸く傾斜する。後側角は葉片状で下後方へ三角形に突出し, その先端は丸まり側方はわずかにえぐれる。突起の内側の後縁はわずかに波状となる。表面は中高で不規則な大きな点刻と短毛を密にそなえる。

雌の頭部は前顔の横隆起を欠き, 中央縦線は雄より短いが強くと隆起し, 点刻は小さく疎で前面は無毛。翅鞘の第 3, 4 列間部は基部でより強く高まる。斜面部は雄より弱く中高, 剛毛は細い。後側角は突出せずに角ばる。後縁はほぼ直線かわずかに前方に凹む。

寄生樹種：ボソ材, *Machilus* sp.

分 布：支那（台湾）。

Crossotarsus externedentatus FAIRMAIRE

FAIRMAIRE, 1850, Rev. et Mag. de Zool., 2 : 51 (♂); CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 24, 26, 82 (♀)

体長は雄 3.4~4.3 mm, 雌 3.4~4.0 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部はほぼ平坦, 中央縦線は長く頭蓋に延び, 下方は隆起する。表面は前顔に明瞭な点刻を, 上方に長楕円形の大きな点刻をそなえ, 中央部では非常に密となり, その結果単に縦皺となる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。側縁は中央の後方を中心に浅くえぐられ, 弯入部の前角は角ばる。背面は微細に点刻されるが, 側方弯入部前方には浅く大きな点刻を密にそなえる。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の側縁は後方に弱く広がり, 斜面部付近から鋸歯状をなして弱く狭まる。長さは幅の 2 倍かそれより長い。点列部は点列からなり基方で狭く凹むが, 後方では幅広くなり鰭肌状となる。第 1 列間部は点条

をなす。列間部は幅広く、後方では長三角形に狹まり隆起し、小顆粒列とやや短い剛毛列をそなえる。表面は中央部を除き微細な点刻をそなえる。第3, 5列間部は基方で広がる。第2, 4列間部は基方で狹まり基縁に達しない。斜面部は短く背面から徐々に傾斜し、背面と明瞭に区別できない。下方には新月形の平滑部を有する。後側角は長三角形の突起を有し、突起の外縁は鋸歯状となり、内方に1小突起をそなえる。

雌の頭部はやや狭く、中央部に楕円形の明瞭な点刻をそなえる。剛毛はやや長く密。前胸背は短く、側縁の湾入部はやや浅く、表面は微細な鮫肌状・点刻はやや大きい。翅鞘はやや短く、非常に細かい鮫肌状をなす。点列部は基部を除き、やや不明瞭。第2, 4列間部は幅広い。第3列間部は基部で広がり小顆粒群を有する。翅鞘の後方はわずかに傾斜し、小顆粒と剛毛をそなえる。斜面部は背面と明らかに区別でき、新月形で突起を欠くが小顆粒と剛毛をそなえる。

寄生樹種：ラワン、メランチ、マラヤ材。

分 布：日本、支那（台湾）、熱帯各地。

Crossotarsus saltator SCHEDL

SCHEDL, 1935, Philip. Journ. Sci., 57: 480 (♀)

= *Trachostus parvus* BROWNE, 1960, Philip. Journ. Sci., 89: 213, 214 (♂)

体長は雄2.8~2.9 mm, 雌3.2~3.3 mm。茶褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は赤褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦、中央縦線は長く凹む。表面は鮫肌状、明瞭な点刻と短毛をそなえる。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は中央部の後方を中心にやや浅くえぐられ、湾入部の前角は角ばる。背面は微細な鮫肌状、点刻は疎で細かいが、前縁、側方で密に大きくなる。中央縦線は短く基縁に達せず、前端は凹み2分する。

翅鞘の長さは幅の約2倍。側縁は中央部後方まで広がり、その後弱く狭まる。点列部は中央部で点列となり、前・後方では密な点刻からなる点条となり弱く凹むが、後方傾斜部では幅広くなる。列間部は幅広く、ほとんど無点刻、傾斜部では狭く高まり剛毛の生えた小顆粒列をそなえる。第3, 5列間部は基方で高まり、かつ広がりお互いに連結する。第4列間部は基方で狹まり基縁に達しない。斜面部は徐々に傾斜し、背面と明らかに区別できないが、非常に細長い新月形。後側角は鋭く尖り、その外方には小歯をそなえる。

雌の頭部の点刻は細かく、前顔の上方は無点刻で剛毛はより多い。前胸背は雄より長い。翅鞘は短く、点列部の凹みは弱い。斜面部の後側角の刺は鈍く、外方に歯を欠く。

寄生樹種：ラワン。

分 布：フィリピン、ベトナム。

Platypodinae 亜科

この亜科は 12 属が知られているが、輸入材からは *Platypus*, *Biocis* の 2 属が知られている。

属の検索表

1. 前胸背の側縁弯入部は後方で縁取られる。雄の翅鞘は通常少なくとも先端の方で弱く傾斜する。まれに縦に水平で、後端は截断される。…………… *Platypus* HERBST
- 前胸背の側縁弯入部は前方で縁取られる。翅鞘は少なくとも雄では縦に水平、後端は垂直に截断されない。…………… *Baiocis* BROWNE

Platypus HERBST 属

種の検索表 (雄)

1. 翅鞘列間部はそれぞれの高さか長さが交互に違い均一でない。…………… 2
- 翅鞘列間部はそれぞれの高さ、長さがほとんど同じである。…………… 5
2. 翅鞘斜面部は斜に截断され、上縁、側縁は竜骨状に鋭く角ばる。体長は約 2.4 mm。……………
- …………… *Platypus hamatipennis* SCHEDL
- 翅鞘斜面上縁は鋭く角ばらない。…………… 3
3. 翅鞘の第 1 列間部は斜面上縁で高まらず斜面部へ延びる。…………… 4
- 翅鞘の第 1 列間部は斜面部近くで平らか竜骨状に高まり突出した歯となる。体長は約 2.5 mm。……………
- …………… *Platypus quadrifissilis* SCHEDL
4. 体は大きい (3.1~3.4 mm)。前胸背は太短く、長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。……………
- …………… *Platypus shoreanus bifurcus* SCHEDL
- 体は小さい (2.4~2.9 mm)。前胸背は細長く、長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。……………
- …………… *Platypus shoreanus mutilatus* SCHEDL
5. 翅鞘の斜面部は多少とも隆起し、明らかに截断されない。…………… 6
- 翅鞘の斜面部はほぼ垂直に近く截断される。…………… 32
6. 翅鞘の後縁は丸まり、側突起を欠き縁取られる。例外的に後縁に非常に小さな割れ目をもち会合線部には小さな突起をそなえる。…………… 7
- 翅鞘の後縁は会合線部に割れ目をもち、側突起をそなえる。…………… 22
7. 翅鞘の後縁は竜骨状突起をそなえ均一に丸まる。…………… 8
- 翅鞘の後縁は非常に小さい凹みをそなえるか波状となる。…………… 20
8. 翅鞘の点列部は点刻列あるいは点条をなす (*Platypi hirtelli*)。…………… *Platypus curtus* CHAPUIS
- 翅鞘の点列部は条溝をなす (*Platypi sulcati*)。…………… 9
9. 前胸背は前半部か基半部中央に点刻群よりなる斑紋をそなえる。…………… 10
- 前胸背は点刻群からなる斑紋を欠く。…………… 18

10. — 前胸背は前半部に点刻群による心臓形ないし円形の斑紋をそなえる。……………11
 — 前胸背は後半部に点刻群による斑紋をそなえる。翅鞘斜面部の突起は基部で幅広く隆起することはない。……………15
11. — 翅鞘斜面部はやや急で、突起を欠き、上縁は角ばり、後方に突出し、斜面部とは段をなす。この部分の第3, 7列間部には小突起をそなえる。翅鞘の条溝は狭く、第3列間部は第2列間部より明らかに幅広い。体長は2.9~3.2 mm。…………… *Platypus partitus* SCHEDL
 — 翅鞘斜面部はややゆるく傾斜し、中央に1対の突起をそなえる。斜面部の上縁は突起をそなえていても角ばらず、徐々に斜面部に移行する。翅鞘は幅広い条溝をそなえる。……………12
12. — 体は大きい (7.7 mm 内外)。翅鞘の第2列間部は第3列間部とはほぼ等幅。第2, 4, 5, 7列間部は斜面部の上縁で後方に鈍く突出した突起をそなえ、第2列間部のものは大きく内方に弯曲する。斜面部の突起は円錐形、基部側方において幅広く広がらない。…………… *Platypus signatus* CHAPUIS
 — 体は小さい (6.2 mm 以下)。一般に翅鞘の第2列間部は第3列間部より幅狭い (*P. terebrans* では等幅)。第2列間部は斜面部の上縁で鈍く突出するか小瘤状となる。斜面部の突起の基部は側方に幅広く隆起する。……………13
13. — 翅鞘の第1, 2列間部はほとんど等幅で第3列間部より低く、中央部の後方から光沢を欠き小顆粒列をそなえる。斜面部の中央にある突起は鈍い。体長は4.6~4.9 mm。……………
 ……………… *Platypus pahangensis* SCHEDL
 — 翅鞘の第1列間部は第2列間部より明らかに狭く、第2列間部は第3列間部と等高で微細に点刻され、斜面部の上縁から小顆粒をそなえる。斜面部中央にある突起はやや鋭い。……………14
14. — 体は大きい (5.5~6.2 mm)。翅鞘の第2, 3列間部の点刻は中央部においても明瞭。前胸背は強く点刻され、点刻群は小さく、その直径は前胸背の幅の1/4より小さい。頭部は均一に深く圧せられる。…………… *Platypus terebrans* SCHEDL
 — 体は小さい (4.0~4.3 mm)。翅鞘の第2, 3列間部の点刻は中央部において欠く。前胸背は弱く点刻され、点刻群は大きく、その直径は前胸背の幅の約1/3。頭部は不規則に弱く圧せられる。…………… *Platypus porcellus* SCHEDL
15. — 体は大きい (6.1~6.4 mm)。翅鞘斜面部は斧状に強く凹み、光沢がなく、寝た短毛をそなえる。前頭の上方両側が半楕円形に隆起し、これは後頭部まで続く。…………… *Platypus apicalis* WHITE
 — 体は小さい。斜面部は凹陷せずほとんど中高で後方に向いた長毛をそなえる。前頭はほとんど平坦。……………16
16. — 翅鞘の第1, 2列間部は基方を除き第3列間部よりやや低く、翅鞘長の半分より後方から光沢を欠き小顆粒列をそなえる。斜面部は第3~5列間部の接合部に弱い瘤状の隆起をそなえ、斜面部外縁にあたる第9列間部には小顆粒列をそなえる。前胸背は心臓形の点刻斑をそなえ、側縁は浅くえぐられる。翅鞘は斜面部を除き光沢がある。体長は3.9~4.5 mm。…………… *Platypus setaceus* CHAPUIS
 — 翅鞘の第2列間部は少なくとも第3列間部と等高で、翅鞘長の2/3より後方から光沢を欠きやや大きな顆粒列をそなえる。斜面部外縁の第9列間部には強大な歯状突起をそなえる。前胸背の側縁は深くえぐられる。……………17

17. 一翅鞘は短く幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍の長さを有する。斜面部は翅鞘の中央から始まり、その中央部の会合線
両側には基部の膨らんだ大きな鈍い角状の 1 突起をそなえ、前縁近くの第 7 列間部には小突起と、
側縁にあたる第 9 列間部上には大きく鈍い 3 鋸歯をそなえる。前胸背の点刻斑はほぼ卵形。体長は
3.9 mm。…………… *Platypus histrix* SCHEDL
一翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{2}{3}$ 倍。斜面部は翅鞘長の後方 $\frac{2}{3}$ から始まり、斜面部の第 2, 3 列間部付近
の中央には 1 小突起を、第 7 列間部下方には 1 小突起をそなえ、後縁の第 9 列間部には小さいが鋭
い 5~6 個の鋸歯をそなえる。前胸背の点刻斑は長楕円形。体長は 3.1~3.3 mm。……………
…………… *Platypus arduus* SCHEDL
18. 一翅鞘上面の点列部は基部から後方まで条溝。斜面部の第 8 列間部は弱く竜骨状となるが小顆粒列の
みをそなえる。翅鞘の第 2, 4, 6 列間部は斜面部の上方においてやや竜骨状隆起し、他のものは次
第に低く丸まり斜面部に移行する。斜面部の第 1 列間部には明瞭な小顆粒列がある。……………19
一翅鞘上面の点列部は基部から後方 $\frac{2}{3}$ まで浅く凹み、不規則な小点刻におおわれ、斜面部の前方で
条溝となる。斜面部の外縁となる第 8 列間部は葉状に突出し、後側角近くで膨らむ。翅鞘の列間部
はすべて斜面部の前方において弱く隆起する。斜面部の第 1 列間部には小顆粒列を欠く。体長は
3.6~4.1 mm。…………… *Platypus niijimai* MURAYAMA
19. 一翅鞘は大きい (6.1~6.8 mm)。翅鞘の基部には小顆粒をそなえる。斜面部は傾斜がゆるく、上半部
に半円形の凹みがあり、その内方は弱く隆起する。斜面部の突起はやや太く、斜面部の後縁近くに
位置する。…………… *Platypus geminatus* CHAPUIS
一翅鞘は小さい (4.5~5.4 mm)。翅鞘の基部には小顆粒を欠く。斜面部は傾斜が急でほとんど中高。
斜面部の突起はやや細く、ほぼ中央部の後方に位置する。…………… *Platypus jansoni* CHAPUIS
20. 一翅鞘の点列部は細かく点刻される (*Platypi emarginati*)。斜面部には鱗毛をそなえる。……………21
一翅鞘の第 1~3 点列部は条溝となる (*Platypi dorso-sulcati*)。斜面部には鱗毛をそなえない。体長
は 5.0~5.5 mm。…………… *Platypus australis* CHAPUIS
21. 一翅鞘はやや扁平、先端はやや幅狭く丸まり、先端会合線部には凹みを欠く。後側角は明瞭。体長は
2.2 mm。…………… *Platypus planodeclivis* SCHEDL
一翅鞘は厳密に円筒形、先端は幅広く丸まる。先端会合線部には半円形の凹みを有する。後側角はや
や不明瞭。体長は 2.5~2.7 mm。…………… *Platypus ptochoides* SCHEDL
22. 一翅鞘の斜面部は楔状に狭まり、両翅鞘先端が共通した突出部に終わり、先端の両側が突出する。翅
鞘の点列部は点刻列か点条からなる (*Platypi oxyurii*)。……………23
一翅鞘の斜面部は楔状に狭まらない。後縁は葉状突起、側角、側突起をそなえる。……………27
23. 一翅鞘の点列部は明瞭な点条からなる。体は赤褐色ないし黒褐色。翅鞘の先端は後下方に突出し、側
方に強く彎曲しない。……………24
一翅鞘の点列部は細点刻列からなり、第 1 点列部を除き点条とならない。翅鞘のほとんどは黄褐色で
半透明。翅鞘の先端は分岐し、下側に強く曲がる。体長は 3.3~3.5 mm。……………
…………… *Platypus biflexuosus* SCHEDL

24. 翅鞘先端の突出部の前方は円形に縁取られ、小さいが斜面部状となる。先端部はほとんど丸まり、尖った突起をそなえない。前胸背の点刻は大きく明瞭。体長は 5.5 mm。…………… *Platypus obscurus* SCHEDL
 翅鞘後方は縁取られることなく、斜面部を形成しない。先端は截断されるか 1～3 個の尖った小突起をそなえる。……………25
25. 体は大きい (3.7 mm 以上)。翅鞘は長く、前胸背の長さの 2 倍以上、横皺を欠く。光沢は強い。側縁はほぼ後方 1/3 から狭まる。前胸背は明瞭に点刻される。……………26
 体は小さい (2.3～2.8 mm)。翅鞘は短く、前胸背の長さの 2 倍以下で横皺をそなえ鮫肌状。光沢は弱い。側縁は中央部から後方に狭まる。先端は斜めに截断される。前胸背は不明瞭に点刻される。…………… *Platypus oneratus* SCHEDL
26. 体は大きい (5.5～5.8 mm)。翅鞘の点列部は深く明瞭に点刻される。列間部の点刻は明瞭。先端部会合線の凹みは広い。先端は薄く外縁が突出する。……………*Platypus xylographus* SCHEDL
 体は小さい (3.7～4.0 mm)。翅鞘の点列部はやや浅く、点刻は小さい。列間部の点刻は不明瞭。先端部会合線の凹みは幅狭い。先端は厚く内縁が突出する。……………*Platypus solidus* WALKER
27. 翅鞘の点列部は基部より先端まで同様な構造。……………28
 翅鞘の点列部は点刻列か点条であるが、会合線近くあるいは後方斜面部近くで条溝となる。……………30
28. 翅鞘は少なくとも後方はウルシ状で光沢を欠く (*Platypi semidepressi*)。斜面部の側突起は幅狭い。……………29
 翅鞘は光沢があり、単に斜面部のみ光沢を欠く (*Platypi lunati*)。斜面部の側突起は幅広く、後縁穹入部には小歯を欠く。体長は 4.6 mm。……………*Platypus subdepressus* SCHEDL
29. 体は大きい (5.3～5.4 mm)。翅鞘の後縁は単純な弧状に凹み会合線の両側に突起を欠く。……………
 ………………*Platypus contaminatus* BLANDFORD
 体は小さい (約 3.7 mm)。翅鞘の後縁は会合線部両側にほぼ三角形の大きな突起をそなえる。……………
 ………………*Platypus turcicus* SCHEDL
30. 翅鞘の基半部はウルシ状光沢で細い点条をそなえ、後半部は光沢を欠く。点列部は顕著に深く溝状となり点刻は不明瞭 (*Platypi opaci-carinati*)。体長は約 3.9 mm。……………
 ……………… *Platypus carbonescens* BEESON
 翅鞘の基部は強い点条をそなえ、単に斜面部のみビロード状光沢となる (*Platypi signati*)。……………31
31. 体は大きい (3.3～3.9 mm)。前頭の後方両側はやや隆起し、中央部は凹む。前胸背はやや太短く、長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。点刻斑は約 30 個の小さい小孔からなる。翅鞘の条溝は幅広い。斜面部上方会合線近くは隆起する。先端会合線近くには扁平な小突起と後側縁に扁平な 2 小突起をそなえ、その外方のものはやや大きい。斜面部内には小顆粒をそなえるが明瞭な突起を欠く。……………
 ……………… *Platypus indicus* STROHMEYER
 体は小さい (1.8～2.2 mm)。前頭の後方は横に隆起する。前胸背は細長く、長さは幅の約 $1\frac{2}{5}$ 倍。点刻斑はやや大きな 7～8 個の小孔からなる。翅鞘の条溝はやや幅狭い。斜面部上方会合線近

- くは凹む。先端会合線近くには小突起を欠き、後側縁にはやや大きい扁平な突起をそなえる。斜面部はほぼ中央両側に強い 1 突起をそなえる。……………*Platypus transformis* SCHEDL
32. 一 翅鞘斜面部の前方は一般に膨隆し、その後方は垂直に近く截断される。表面は一般に深く凹む。後縁は中央で深く弯入するか、側方に大きな突起をそなえる (*Platypi cupulati*)。……………33
- 一 翅鞘斜面部の前方は膨隆をせず、斜面部は斜に截断され、表面はわずかに隆起し後縁は丸まる (*Platypi truncatipenni*)。斜面部会合線部はわずかに凹む。体長は約 2.4 mm。……………*Platypus fallax* SCHEDL
33. 一 翅鞘斜面部先端の弯入部は斜面部のほぼ 2/3 に達する。斜面部は光沢が強く弯入部周辺で強く圧せられ、疎な短毛をそなえる。斜面部周辺は隆起するが鋭い竜骨状とはならない。弯入部両側の突起は長く、内側先端近くでわずかにくびれる。体長は 3.3~3.9 mm。……………*Platypus forficula* CHAPUIS
- 一 翅鞘斜面部先端の弯入部は斜面部の半分に達するかそれより浅い。……………34
34. 一 翅鞘の側縁は中央部が最も幅広く、その後方は狭まり、斜面部の前方で非常に強くくびれたあと顯著に膨らむ。斜面部は光沢が強く、中央部は円形に広く強く圧せられ、疎な短毛をそなえる。側縁部はやや肉厚な竜骨状。弯入部は斜面部のほぼ半分に達し、内側は波状となる。体長は 3.6~4.0 mm。……………*Platypus omega* SCHEDL
- 一 翅鞘の側縁はほぼ平行か中央部で少し広がり、斜面部の前方でわずかにくびれ、その後方はかすかに膨らむ。……………35
35. 一 翅鞘斜面部は一般に光沢が強く (*P. caliculus* を除く)、全体に強く圧せられ、上縁の会合線部は側縁より明らかに低い。側縁は肉薄の竜骨状となる。……………36
- 一 翅鞘斜面部は光沢が弱く、部分的に弱い凹みをそなえ、上縁会合線部は側縁中央部と同じ高さかそれよりわずかに低い。側縁は肉厚の竜骨状か、尖らず丸く隆起する。……………41
36. 一 体は大きい (4.0~5.0 mm)。翅鞘斜面部の弯入部は突起をそなえず長三角形。表面は微細な点刻をそなえ、その間隙は平滑、中央部左右に弱い隆起を有する。……………*Platypus cupulatus* CHAPUIS
- 一 体は小さい (4.0 mm 以下)。翅鞘斜面部の弯入部の両側は波状をなし、小三角形の突起を有する。……………37
37. 一 翅鞘斜面部後縁の上方の弯入部は下方の弯入部の幅の 1/3 より狭い。斜面部は背面から見てほぼ一直線に截断され、微細に点刻される。体長は 3.6 mm。……………*Platypus lepidus* CHAPUIS
- 一 翅鞘斜面部後縁の上方の弯入部は三角形で下方の弯入部の幅の 1/2 より幅広い。斜面部の上縁は一直線とならず、中央部において凹み、弧状、山形となる。……………38
38. 一 体は大きい (3.3 mm 以上)。斜面部は下方にわずかに延びた円形、下縁の弯入部は一般に幅狭く、中央の歯は小さい。……………39
- 一 体は小さい (2.8~3.2 mm)。斜面部はほぼ正面形、下縁の弯入部は幅広く、中央の歯は大きい。……………*Platypus pallidus* CHAPUIS

39. 翅鞘の斜面部は微細な鮫肌状，光沢は弱く，点刻は微細か，これを欠く。背面第3列間部の点刻は中央部において不明瞭となる。体長は3.6~4.0 mm。…………… *Platypus caliculus* CHAPUIS
 翅鞘の斜面部は大きく点刻され，その間隙は平滑で光沢が強い。背面の第3列間部の点刻は中央部において明瞭。体長は3.3~3.9 mm。…………… 40
40. 頭部は縦皺状の印刻をそなえる。前胸背の点刻は明瞭で密。翅鞘列間部は小点刻をそなえる。第2，4列間部は基方で強く狭まる。斜面部の弯入部は長三角形で狭い。体長は3.3~3.9 mm。…………… *Platypus pseudocupulatus pseudocupulatus* SCHEDL
 頭部は丸い点刻におおわれている。前胸背の点刻は小さく疎。列間部の点刻はより明瞭。第2，4列間部は基方で強く狭まらない。斜面部の弯入部は三角形で幅広い。体長は3.4~3.7 mm。…………… *Platypus pseudocupulatus sundaensis* SCHEDL
41. 翅鞘斜面部の弯入部側方は波状をなし，小突起をそなえる。…………… 42
 翅鞘斜面部の弯入部側方は円弧状をなし，小突起を欠く。…………… 43
42. 体は大きく（4.3 mm）やや太短い。前胸背は強く点刻され，その間隙は鮫肌状。翅鞘の側縁はほとんど平行。斜面部の上縁は背面から見てゆるく弧をえがき，表面はほぼ均一に圧せられる。…………… *Platypus piniperda cambodianus* SCHEDL
 体は小さく（3.1~3.6 mm）細長い。前胸背は弱く点刻され，その間隙はほぼ平滑。翅鞘の側縁は後方に広がる。斜面部の上縁は中央で前方に曲がり，山形をなし，表面は上方ほど強く圧せられる。…………… *Platypus murayamaensis* SCHEDL
43. 体は大きい（3.3 mm）。翅鞘後縁の弯入部はほぼ斜面部の半分に達し，両側の突起は幅広い。斜面部の会合線付近は弱いが幅広く隆起する。…………… *Platypus maritinus* SCHEDL
 体は小さい（3.2 mm 以下）。翅鞘後縁の弯入部は斜面部の1/3に達し，両側の突起は幅狭い。斜面部の会合線付近は幅狭いが強く隆起する。翅鞘の側縁は斜面部の前方でやや強くくびれる。…………… 44
44. 翅鞘斜面部の弯入部は横に幅広く，下方で広がる。前胸背の中央縦線の点刻斑は小さく，1列の点刻からなる。体長は2.5~3.2 mm。…………… *Platypus biuncus* BLANDFORD
 翅鞘斜面部の弯入部は縦横同じかわずに幅狭く，下方で狭まる。前胸背の中央縦線両側の点刻斑は大きく，ほぼ2列の点刻からなる。体長は2.6~3.0 mm。…………… *Platypus agnatus* SCHEDL

種の記載

Platypus hamatipennis SCHEDL

SCHEDL. 1970, Kontyû, 38(4): 364~365 (♂)

体長は雄2.3~2.4 mm，雌2.7~2.9 mm。赤褐色，複眼と前胸背の中央縦線は黒色。翅鞘の後方は黒褐色。光沢は強く，翅鞘は微細構造によって輝く。

頭部は幅広くほとんど平坦，細かく不明瞭に点刻される。

前胸背の長さは幅の約1 1/5倍。側縁は中央部を中心に深くえぐられ，弯入部の後角は少し突出する。

背面は小さな点刻を疎にそなえ、前縁と基縁には皺をそなえる。中央縦線は短く、基縁に達せず前側方に浅い不整形の印刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 2 倍。側縁は後方に広がる。点列部は大きな点刻からなる幅広い点条となり浅く凹むが、斜面部の前方で消失する。列間部は微細に印刻され輝く。第 1～3 列間部は後方で平滑となる。斜面部の前方は、平滑な帯状となるが隆起しない。斜面部は斜に截断され小楕円形。後縁は斜面部の 1/4 程彎入し、その彎入部の外先端は尖り、その内方はヤットコ状に強く後方に突出し内方に曲がる。後縁会合線部は丸く突出する。斜面部の周辺は弱いが薄く竜骨状に突出するが、上縁会合線部はこれを欠く。表面はほぼ平坦、基方が瘤状に膨らみ短毛を持った小顆粒をそなえる。

腹部の中央部から外先端にかけて弧状の竜骨状突起をそなえ、この付近は隆起する。

雌の前胸背は少し短く、前胸背の彎入部の後角はほとんど突出しない。中央縦線側方には各約 10 個の小孔をそなえ楕円形の斑紋を形成する。翅鞘は少し長く、側縁はほとんど平行で後縁近くで丸まる。点列部は狭く、点刻列からなる。列間部は広く、微細に印刻される。第 3, 5 列間部は基方で高まり、小顆粒をそなえる。斜面部は徐々に丸く傾斜し、表面は粗造で短毛をそなえる。

寄生樹種：セプティル。

分 布：マラヤ。

Platypus quadrifissilis SCHEDL

SCHEDL, 1936, Ann. Mus. Cov. Genova, 59 : 57～58 (♂); SCHEDL, 1961, Philip. Journ. Sci., 90 : 96 (♀)

体長は雄 2.4～2.6 mm。暗赤褐色、複眼は黒色、頭部上半、翅鞘後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部は弱く中高。中央縦線は長く、これに沿って凹む。前顔部は横に凹み、この上側方には幅広い縦皺状の印刻を、下方にはやや大きな点刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{3}$ 倍。側縁は中央部の後方を中心に浅くえぐられ、彎入部の後方は外方に強く突出する。背面は細かい点刻を疎にそなえるが、前方、前側方のものは大きくなる。中央縦線はやや長く、前側方に各約 10 個の小点刻群をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{5}$ 倍。点列部の点刻は大きく、後方は凹み、やや狭い条溝となる。前方の点刻は疎。第 1 点列部では前方も細い点条となる。列間部は幅広く後方に狭まる。第 4 列間部は基方で高まる。第 1～4 列間部は後方で鈍く尖り短毛をそなえる。第 2, 4 列間部は第 1, 3 列間部より短い。第 5～9 列間部は共通の竜骨状突起となって終わる。斜面部はほとんど垂直に近く、第 1～4 列間部がそれぞれ上縁で突出する。側縁は第 5～9 列間部が竜骨状に突出する。下側角は下方へ三角形に突出する。下縁は会合線両側から側突起部にかけて下方に葉片状に突出し、先端は 2 分し、その内方のものは長く大きく延びる。表面は弱く中高、周辺は幅広く圧せられ、会合線付近は隆起する。上方には逆八の字形の隆起線がある。中央部鯨肌状、小顆粒を密にそなえ短毛を生ずる。周辺の押圧部は平滑で光沢が強い。

寄生樹種：ラワン、カプール、メランチ。

分 布：フィリピン、サラワク、セレベス、マラヤ、メンタワイ群島、アンダマン群島。

Platypus shoreanus bifurcus SCHEDL

SCHEDL, 1938, Philip. Journ. Sci., 67 : 422 (♂, ♀)

体長は雄 3.0~3.4 mm, 雌 3.3~3.6 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部はわずかに中高, 中央部は弱く丸く圧せられる。中央縦線はやや長く凹む。表面は鮫肌状で縦長の点刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は中央部の後方を中心に浅くえぐられ, 彎入部の後角は弱く突出する。背面は細かい点刻を疎にそなえ, 前方, 前側方, 後方のものは大きくなる。中央縦線は長く後縁に達せず, 大きな点刻よりなる長心臓形の大きな点刻斑をそなえる。

翅鞘の長さは幅の 2 倍に近い。側縁は後方に広がる。点列部は狭く点条をなし凹む。列間部は広く, 前方に狭まり, 基部は高まる。第 1 列間部は狭く, 第 3, 5 列間部には細かい点刻をそなえるが斜面部近くでは鮫肌状になる。第 2, 4, 6 列間部は斜面部近くで狭まりわずかに隆起する。第 3, 5 列間部は後方で短毛をそなえ, 高まり突出して尖り, 斜面部の上縁突起となる。第 7, 8 列間部は下後方に弯曲し, 外縁突起となり短毛をそなえる。斜面部は斜に傾斜し, やや扁平な半円形で中高, 鮫肌状, 光沢を欠き短毛をそなえる。第 7, 8 列間部からなる外縁突起の内側には下方に延びる長三角形の葉片状突起をそなえる。列間部は上方で明瞭に隆起する。

雌の頭部は雄よりやや細長くかつ強く圧せられ, 点刻は丸く細かく疎。前胸背は短かく, 前縁近くの点刻は大きい。点刻斑は幅広い。翅鞘の後方は弱く丸まり, 鮫肌状で小顆粒と剛毛を不規則にそなえる。第 2~5 列間部は基方で高まり小顆粒をそなえる。第 3~5 列間部は後方で幅広くなるが突出したり隆起しない。斜面部はやや五角形に近く, 後縁はわずかにへ字形で小顆粒と短毛を密にそなえる。

寄生樹種: ラワン, メランチ, カプール, アガチス。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, カリマンタン, ビルマ, ベトナム, マラヤ, スマトラ, モルッカ群島, セレベス, ニューギニア。

Platypus shoreanus mutilatus SCHEDL

SCHEDL, 1938, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 18 : 359 (♂, ♀)

本亜種は前亜種に類似するが次の点で異なる。

体長は雄 2.4~2.9 mm, 雌 2.7~3.0 mm。頭部の点刻は小さく疎, 中央縦線の凹みは深い。前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。翅鞘は長く, 長さは幅の約 $2\frac{1}{4}$ 倍。第 3, 5 列間部の後方で広がる方は弱い。斜面部の第 7, 8 列間部からなる側突起は長く, 第 1 列間部の隆起は強い。

雌の翅鞘は細長い。第 3 列間部は基方で広がり小顆粒をそなえる。斜面部の後縁はより強くへ字形に凹む。

寄生樹種: ラワン, サラワク材, メランチ, メルサワ, カプール。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, カリマンタン, マラヤ, スマトラ, モルッカ群島, ブル島。

Platypus curtus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 36, 261~262 (♂); SCHEDL, 1935, Philip. Journ. Sci., 57 : 488~489 (♀)

体長は雄 3.4~4.0 mm, 雌 3.8~4.5 mm。赤褐色, 翅鞘後半は暗褐色, 複眼は黒色。光沢は強く, 頭部, 斜面部は光沢が鈍い。

頭部はほとんど平坦, 前頭側方はわずかに隆起する。中央縦線は短く凹む。表面は鮫肌状をなし, 光沢弱く, 横皺をそなえる。

前胸背の長さは幅とほとんど等しく, 側縁はやや浅くえぐられ, その後角は角ばる。背面は大きな点刻をやや疎にそなえるが, 基部のものは大きく密となる。中央縦線は短く基部に達しない。点刻斑はやや大きな点刻よりなり, ほぼ心臓形。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{3}{4}$ 倍。側縁はわずかに後方に広がる。後縁は単純に丸まる。第 1 点列部は浅く狭い条溝をなすが, 他の点列部は長楕円形の点刻列からなり浅く凹み, 基方で明瞭に凹む。列間部は幅広くわずかに隆起し, 点列を不規則にやや密にそなえる。基部, 斜面部近くの点列はやや大きく密となる。基部には小顆粒をそなえる。斜面部は中高で鮫肌状。第 8 列間部よりなる側縁は鋸歯状。上方の点列部は浅く凹むが点刻を欠く。列間部は小顆粒とこれから生ずる直立した剛毛を, 上方にはやや密に, 下方にはやや疎にそなえる。第 3 列間部は中央部に明瞭な円錐形の突起をそなえる。

雌の前胸背の点刻斑の後方中央縦線付近のものは大きく小孔状をなす。翅鞘の側縁はほとんど平行で斜面部近くで徐々に狭まる。背面は後方で弱く傾斜する。第 1 点列部は長楕円形の点刻列からなり弱く凹むが他の点列部は雄のものよりやや深い。基部の小顆粒はより明瞭。斜面部近くの列間部は小顆粒と剛毛をそなえる。斜面部は急でほぼ三角形, 翅鞘上面とは第 1 列間部を除き溝で区切られる。表面は鮫肌状, 小顆粒とこれより生ずる剛毛を密にそなえる。

寄生樹種: ラワン, アピトン, セラヤ, 北ボルネオ材, クーイン, メランチ, プデック, マレイ材, メルンジャワ。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, カリマンタン, ベトナム, ビルマ, カンボジア, マレイ, ジャバ, スマトラ, モルッカ群島, インド。

Platypus partitus SCHEDL

SCHEDL, 1935, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 17 : 639 (♂)

体長は雄 2.9~3.2 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘後方, 腹部は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部は前頭がやや深く凹む。中央縦線は短く凹む。表面は丸く大きな点刻をやや密にそなえ, その間隙は微細な鮫肌状。

前胸背の長さは幅より大きい。側縁は中央部の後方を中心に幅広く深くえぐられる。背面は微細な点刻を疎にそなえ, 前縁近くには大きな点刻をそなえる。中央縦線はやや長く基縁に達しない。前方には小点刻群よりなるほぼ心臓形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。点列部は非常に狭い条溝をなし, 後方で広がり光沢を欠く。列間部はわずかに隆起し, 後方に狭まり, 明瞭に隆起し, やや疎な小点刻をそなえる。第 3 列間部は幅広く基方で広がり, 小点刻を密にそなえる。第 4 列間部は前方で狭まり基縁に達しない。第 2, 3 列間部は瘤起で終わ

る。斜面部はややゆるく傾斜し、上方において第2～6列間部が縁状に突出する。上部の点列部は明らかに凹み、列間部は強く隆起し、短毛を列生する。下部は鮫肌状、光沢を欠き、点列部は不明瞭で不規則な低い小顆粒をそなえる。

寄生樹種：アガチス、インドネシア材、メランチ。

分 布：カリマンタン、マラヤ、スマトラ、セレベス。

Platypus signatus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 32, 235～236 (♂); SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 208 (♀)

体長は雄7.7 mm 内外、雌8.1～8.4 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘後半は黒ずむ。光沢は強い。

頭部は全体に平坦、触角付着部の内側から複眼前方にかけて隆起する。中央縦線はやや長く、前半は凹む。表面は鮫肌状、寝た毛をそなえ、大きいが浅い点刻を密布する。

前胸背の長さは幅と等しい。側縁は中央部を中心にわずかに弧状にえぐられる。背面は全体に細かい点刻と剛毛をそなえる。前縁の点刻は大きい。中央縦線は短く基縁に達しない。前方には小点刻群よりなるほぼ心臓形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約1 $\frac{3}{4}$ 倍。側縁は後方に広がり、後縁は丸まる。点列部は条溝をなし幅広く凹み、基方に狭まり、点刻は不明瞭。列間部は幅広く隆起し、不規則な小点刻をそなえ、基部には小顆粒をそなえる。第1列間部は幅狭く点刻を密布し、斜面部近くで隆起しない。第3列間部は基方で広がる。第4列間部は狭まり基縁に達しない。斜面上縁において第2列間部は内方に弯曲した大きな突起となって終わり、第3, 4, 6列間部の後方に突出した刺で終わる。斜面部はゆるく傾斜し隆起する。上半会合線付近は隆起する。中央下方左右には尖った小突起をそなえ、その上方の点刻列は浅い大きな点刻よりなる。列間部は弱く隆起し、小点刻と毛列をそなえる。表面は鮫肌状。

雌の頭部はより小さい点刻におおわれ、中央縦線付近は隆起する。翅鞘は雄よりやや細長く、点列部ははるかに狭い。列間部は隆起し、基部には小顆粒を密布する。斜面部上方には突起や刺をそなえない。斜面部は丸くゆるく傾斜する。第1, 2列間部は低く、その外方は隆起する。上、側方の列間部は小顆粒と寝た剛毛をそなえる。下方左右には丸まった瘤をそなえ、その付近に剛毛を密生する。

寄生樹種：メランチ。

分 布：サラワク、ビルマ、マラヤ、ジャバ。

Platypus pahangensis SCHEDL

SCHEDL, 1936, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 18 : 34 (♂, ♀)

体長は雄4.6～4.9 mm、雌5.0 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後半、腹部は暗褐色。光沢は強い。

頭部は全体に浅く凹み、中央縦線は非常に短く、上方に楕円形の凹みをそなえる。表面は不整形の密な浅い大印刻をそなえ、その間隙は微細な鮫肌状。

前胸背の長さは幅より少し大きい。外縁は中央部の後方を中心にやや深くえぐられる。背面は疎な点刻をそなえる。前方の点刻は大きい。中央縦線はやや長く基縁に達しない。前方には小点刻よりなるほぼ心臓形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍、点列部はやや幅広く、光沢のない条溝。第 3, 5, 7 列間部は他のものより幅広く、かつ後方に狭まり隆起し、小点刻をそなえる。第 1, 2 列間部は基方で密に点刻され、後方 $1/3$ は光沢を欠き顆粒列をそなえる。第 3 列間部は斜面部上縁で瘤状に突出する。斜面部はややゆるく傾斜し、隆起する。その上方には第 3 列間部から外方に向かう縁状の隆起をそなえる。表面は鮫肌状で光沢を欠く。

寄生樹種：メランチ、インドネシア材。

分 布：マラヤ、セレベス。

Platypus terebrans SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 368~369 (♂, ♀)

体長は雄 5.5~6.2 mm, 雌 6.2 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘斜面部は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部は浅く広く凹む。中央縦線は非常に短い。表面は微細な鮫肌状、浅いが明瞭な点刻を密布する。

前胸背の長さは幅よりわずかに大きい。側縁は中央部を中心にわずかにえぐられる。背面は明瞭な点刻を密布する。前縁中央部には大きな点刻をそなえる。中央縦線は短く基縁に達しない。その前方 $1/4$ の少し前には小点刻群からなる楕円形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{5}{8}$ 倍。側縁は後方にわずかに広がり、後縁は単純に円まる。点列部は条溝、やや広く明瞭に凹み、光沢を欠く。列間部はやや狭く弱く隆起し、不規則な点刻を密布し、基部には小顆粒をそなえ、斜面部上縁において隆起するが突起とはならない。第 1 列間部は幅狭く、粗造で不整形の印刻を密に、後方に顆粒列をそなえる。第 3, 5 列間部は基方で幅広くなる。第 4 列間部は基部に達しない。斜面部はゆるく傾斜し、全体に中高、鮫肌状で疎な短毛をそなえる。点列部は不明瞭な大きな点刻列をそなえる。列間部は小顆粒列をそなえる。第 1 列間部は上方で隆起する。第 2, 3 列間部は上方で弱く凹む。中央部の下方両側には大きな突起をそなえ、その基部側方付近は膨隆する。先端会合線両側には 1~2 個の顆粒をそなえる。

雌の頭部は広く深く凹み、点刻はより深い。点刻間は光沢があり、長毛をやや密にそなえる。触角の柄節は長毛を密生する。前胸背はやや長く、点刻は小さく、点刻斑は大きい。翅鞘は長く、点列部は幅広く、斜面部上縁で隆起せず、点刻は小さい。第 3, 4 列間部は基方でわずかに幅広くなる。斜面部はよりゆるく傾斜し、不規則に小顆粒と短毛をそなえる。第 3 列間部は隆起する。後方会合線両側は凹む。側方には小突起をそなえ、その基部ならびに外方は広く膨隆する。

寄生樹種：カプール、サラワク材、MLH 材、インドネシア材、メルサワ、マラヤ材。

分 布：サラワク、カリマンタン、インドネシア、マラヤ。

Platypus porcellus SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 209 (♂)

体長は雄 4.0~4.3 mm, 雌 4.2~4.6 mm。背面は赤褐色、腹面は黄褐色、複眼は黒色、翅鞘は黒褐色。光沢は強い。

頭部は縦に幅広く凹み、粗大な点刻を密布する。中央縦線は短くわずかに凹む。

前胸背の長さは幅よりわずかに大きい。側縁は中央部が幅広くえぐられる。背面は明瞭な点刻を疎にそ

なえる。中央縦線は長く前方に延びるが基縁には達しない。中央縦線の前方には密な微小点刻群よりなる円斑をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{4}{5}$ 倍。点列部はやや深く凹み点刻は不明瞭。列間部は隆起し、微細な点刻と非常に疎な点刻をそなえ、基部では密に点刻される。第1列間部は後方で狭まり小顆粒列をそなえる。第2, 3列間部は幅広く基方で広がる。第2列間部は斜面部上縁で隆起し小突起で終わる。斜面部はやや急で中高、鮫肌状。点列部は上半で凹み、列間部は細かいが明瞭で小顆粒列と短い毛列をそなえる。中央部のやや下方両側には横に広く隆起した瘤をそなえる。瘤の先端は内方に弯曲した刺となる。隆起部の下部では第1列間部に毛列と小顆粒列をそなえる。腹部第4節の後縁両側に各1個の外方に延びた刺をそなえる。

雌の頭部はわずかに中高で、上方には横の凹みをそなえる。表面はほとんど無点刻で長毛をそなえる。翅鞘の点列部は幅狭く弱く凹む。列間部は幅広く隆起は弱い。第2, 4列間部は基方に短く延びかつ低い。斜面部は上半ゆるく傾斜し、列間部は低く不明瞭。中央部にある瘤は低く刺を欠く。

寄生樹種：ソロモン材。

分 布：ニューギニア，ニューブリテン島，ソロモン群島。

Platypus apicalis WHITE

WHITE, 1846, Zoology of the Voyaga of H. M. S. EREBUS & Terror, London, Janson, p. 18 (♂)

-*P. douei* CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., p. 237 (♀)

体長は雄 6.1~6.4 mm, 雌 6.7~6.8 mm。赤褐色，複眼は黒色，背面は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部は平坦かわずかに隆起し，触角着生部から複眼前方中央部上方まで明瞭に縁取られ，その内方は凹み，長毛列をそなえる。中央縦線はやや長く凹む。表面は鮫肌状，上半には縦に凹んだ皺をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は中央部後方を中心としてやや深くえぐられる。背面は中央部点刻斑前方において丸くかすかに凹む。表面は小点刻を疎にそなえるが，前縁のものは大きい。中央縦線はやや短く，基縁に達しない。中央縦線にはやや大きな点刻からなるリング形の大きな斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{6}$ 倍。基縁の隆起線は弱い。側縁は後方に弱く広がり，後縁は単純に丸まる。点列部はやや幅狭い条溝をなし，点刻は不明瞭。列間部は幅広く弱く隆起し，疎な小点刻を，斜面部近くには小顆粒と剛毛をそなえる。第2, 4列間部では後方を除きこれを欠く。第1列間部は極端に幅狭い。斜面部はゆるく，楕円形に凹むが，会合線に沿って隆起する。凹陷部は光沢を欠く。第1, 2列間部には剛毛をそなえる。凹陷部の中央部側方の第5列間部には内方に曲がった鈍い突起をそなえる。

雌の頭部は隆起するが，中央部は明らかに凹む。側方の縁取りの内方の凹みは狭く，その内方は更に丸く縁取られる。表面の上半は楕円形ないし幅広い皺状の点刻を密布する。翅鞘の点列部は弱い点条をなし，点刻は明瞭。第3, 4列間部は基方で広がり小顆粒を密布する。後方は粗大な浅い点刻を密布し，列間部は不明瞭となり，やや長い剛毛をそなえる。斜面部は急で凹み，ほぼ三角形。上縁会合線部は凹み短毛をやや密にそなえる。

寄生樹種：ラジャータパイン。

分 布：ニュージーランド，オーストラリア。

Platypus setaceus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 33, 234~235 (♂); SCHEDL, 1935, Philip. Journ. Sci., 57, 484~485 (♀)

体長は雄 3.9~4.5 mm, 雌 4.3~4.5 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘後半, 腹部は黒褐色。光沢は強い。

頭部は平坦で中央縦線は短くわずかに凹む。表面は密に不規則な皺をそなえ粗造。前顔には明瞭な点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅よりわずかに大きい。側縁は中央部の後方を中心に浅くえぐられる。背面は明瞭な点刻をやや密にそなえる。中央縦線は短く基部に達せず, その側方には小点刻からなる心臓形の点刻斑をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は後方に広がる。点列部は幅広く, やや深い条溝をなし, 鮫肌状。列間部は隆起し, 基方に小顆粒をそなえる。第 2, 3 列間部は基方で広がる。第 1, 2, 4 列間部は後方 $1/3$ から低くなり, 小顆粒列をそなえる。表面は微細に粗造となり光沢が弱い。第 3, 5 列間部は他のものと同じ高さであるが, 幅広くほとんど小顆粒を欠き光沢が強い。斜面部はややゆるく中高で光沢が弱い。点列部, 列間部は下部の小突起付近まで明瞭。点列部は列間部より幅広く鮫肌状。列間部は狭く小顆粒列をそなえる。第 3, 5 列間部の接合部には小突起をそなえ, その周辺は隆起する。

雌の前頭は下方において逆新月形に深く凹み, 中央部上方には剛毛を密生し, これより上方には頭蓋に達する長い中央縦線をそなえる。凹陷部は平滑。その上方は点刻をやや密にそなえ粗造。前胸背の点刻はやや小さく, 側縁の弯入部はやや基部より深い。翅鞘は雄より長く, 点列部は幅広い。列間部の表面の構造はいずれも同じ。第 2, 3 列間部は基方で顕著に広がらないか弱く傾斜しはじめる。列間部後方には剛毛の生えた小顆粒突起を密にそなえる。斜面部は半円形ではほとんど平坦。上側縁はわずかに隆起し, 会合線両側を除き, 微小顆粒とやや短かい剛毛を房状に密生する。

寄生樹種: ラワン。

分 布: フィリピン, ニューギニア。

Platypus histrix SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2): 206~218 (♂)

体長は雄 4.0 mm, 雌 3.6 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は短く弱く凹む。表面は鮫肌状。前顔には明瞭な点刻をそなえ, 前顔上部から頭蓋にかけ小点刻を密に, 短毛をやや密にそなえる。

前胸背の長さは幅と等しい。側縁は中央部の後方を中心に弧状に弱くえぐられる。背面は中央縦線の前方で弱いが広く圧せられ, 小さいが明瞭な点刻をやや密にそなえるが, 前縁では密になる。前側方には短毛をやや密にそなえ, 前外角のものは長い。中央縦線は短く, 前方は凹む。点刻斑はほぼ卵形。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。背面は中央部の後方から徐々に傾斜しはじめ斜面部とは区別しがたい。点列部は幅広く条溝をなし, 後方で広がり浅くなる。列間部は幅広く隆起し, 後方で狭まり, 小鋸歯状突起列とはほぼ列状をなした剛毛をそなえる。斜面部の中央上縁にあたる第 1, 2, 3 列間部の結合点が後方に突出した突起となる。後縁近くの側方(第 7, 8 列間部)には小突起をそなえる。側縁(第 9 列間部)に

は2個の楔形の強大な突起をそなえる。

雌の前顔は釣鐘形に弱く凹み、その周辺は弱く隆起する。触角の柄節はより強く下方に延びる。前胸背の中央縦線部には楕円形のやや疎な点刻よりなる斑紋をそなえる。翅鞘は雄よりやや細長く、点列部はやや浅い。列間部は微細な点刻をやや密にそなえる。第3列間部は基部で広がり隆起し、小顆粒を密にそなえる。斜面部は徐々に始まり、点列部は浅い。列間部は鮫肌状で光沢を欠き、小顆粒と密な短剛毛をそなえる。後方は急に傾斜し、ほぼ三角形となり明瞭な突起を欠く。

寄生樹種： *Shorea* sp.

分 布：サラワク。

Platypus arduus SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 214 (♀); SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 206, 218 (♂)

体長は雄3.1~3.3 mm, 雌2.9~3.6 mm。茶褐色、複眼は黒色、翅鞘の後半は暗褐色。光沢は強い。

頭部は中高、前顔は弱く凹む。中央縦線は短い。表面は鮫肌状、正円形の大きな点刻を密布するが、前頭のもの疎で小さくなる。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は中央の後方を中心にやや弱くえぐられる。背面は中央縦線の前方で弱く圧せられる。中央縦線は短く基縁に達せず前方で凹むが、その側方は隆起する。表面は点刻をやや密にそなえるが、前方のものは密で大きくなる。中央縦線の両側に点刻群からなる長楕円形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約1 $\frac{2}{3}$ 倍。前縁は強く縁取られ高くなる。側縁はほぼ2/3が後方に広がり、その後丸まる。点列部は条溝で幅広く後方に広がり、鮫肌状。列間部はやや広く、後方に狭まり、細長い小顆粒列と毛列をそなえ鮫肌状。第1列間部は幅狭く後方で広がり、明瞭に点刻される。第2, 3, 4列間部は後方に弯曲する。斜面部は背面から徐々に丸く傾斜し、その境は明瞭でない。第2列間部、下方第8列間部には小突起がある。第9列間部後方には明瞭な数個の鋸歯状突起をそなえる。最後部は3角形でやや強く傾斜し、点列部は不明瞭で光沢を欠き短毛をそなえる。

雌の頭部は触角着生部間で新月形に隆起し、その下方は雄より強く凹む。点刻は不明瞭であるが、小顆粒より生じた頭蓋の毛は短く密。前胸背の点刻はより密で全面短毛におおわれる。中央縦線にはほぼ心臓形の点刻斑をそなえる。翅鞘はやや細長く、点列部は凹み、後方では浅くなり、不規則な小点刻をそなえる。列間部は小点刻を不規則に、短毛をやや密にそなえ、後方では徐々に狭まり小顆粒と剛毛を不規則にそなえる。第3列間部の基部には小顆粒を密にそなえる。斜面部の第3列間部と第7列間部にあたる所には小顆粒をそなえる。第5列間部の鋸歯は欠く。

寄生樹種：ラワン、ジョンコン。

分 布：サラワク。

Platypus niijimai MURAYAMA

MURAYAMA, 1931, Journ. Coll. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 30 : 197~198, 203 (♂)

体長は雄3.7~4.1 mm, 雌4.0~4.4 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は黒褐色。

頭部は平坦かわずかに凹み、中央縦線は短く凹むが、その周辺は弱く隆起する。表面は全面鮫肌状、均

一に短毛を生じた小点刻を疎布する。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は前方に広がり、中央部の後方を中心にやや弱くえぐられる。背面は明瞭に点刻され、前方、基方のものは大きく密になる。中央縦線は短く、基縁に達しない。点刻斑を欠く。

翅鞘の長さは幅の 2 倍より少し短い。点列部は狭い。第 1 点列部は条溝をなし、他の点列部は明らかに凹むが明瞭な条溝をなさず小点刻を不規則にそなえる。いずれの点列部も後方斜面部前方で広い条溝となり鮫肌状で光沢を欠く。列間部はやや弱く隆起し、後方は狭まり隆起し明瞭であるが微細な点刻をそなえる。第 1 列間部は狭い。斜面部はゆるく中高、光沢は弱く鮫肌状。側縁は第 8 列間部が竜骨状をなして突出し、小さな鋸歯状となる。上部の点列部は大きく密に並んだ点刻からなる。下部は細かく粗造。第 3 点列部の終わりには小突起をそなえる。

雌の頭部は縦に幅広く凹む。上半部は雄より大きな点刻をそなえ鮫肌状。下半部は密に点刻されるが、前顔ではやや疎となる。前胸背の中央縦線の前方には密な点刻よりなる大きな円形の斑紋をそなえ、その点刻の前方のものは大きくなる。翅鞘は雄より長く、点列部は第 1 点列部だけわずかに条溝となる。第 3, 5 列間部は基部で広がり小顆粒を密布する。斜面部の前方は弱く傾斜し、点列部は明瞭で剛毛の生じた不規則な小顆粒をそなえる。斜面部は急でほぼ平坦、八の字形の凹みをそなえ、表面は鮫肌状で剛毛を密にそなえる。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：支那（台湾）。

Platypus geminatus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 239 (♂)

= *P. turbatus* CHAPUIS, 1865, t. c., pp. 33, 242~243 (♀)

体長は雄 6.1~6.8 mm, 雌 6.3~7.0 mm。赤褐色、翅鞘斜面部は黒褐色、複眼は黒色。光沢は強いが頭部、斜面部はこれを欠く。

頭部は中央部で幅広くやや強く凹む。中央縦線は短く隆起する。表面は不規則な形をした短い隆起した皺をそなえ、複眼内方では長い皺となり、下方では小顆粒におきかえられる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は浅くえぐられ、弯入部の後角は丸まる。背面は細かい点刻を密布するが、基部のものは大きくなる。中央縦線はやや長く基縁に達せず前方で 2 分岐する。点刻斑を欠く。

翅鞘の長さは幅の 2 倍よりわずかに短い。側縁は後方にわずかに広がり、その後單純に丸まる。点列部は条溝をなし強く凹み、点刻は不明瞭。列間部は隆起し小点刻を疎布するが、その基方のものは大きく密となる。後端は長毛を持った突起で終わる。第 2, 4, 6, 9 列間部はやや短く終わる。斜面部はやや隆起し、上半部には幅広い斜の凹陷部をそなえる。表面は鮫肌状、浅い点刻を散布する。第 1 列間部には後縁まで小顆粒をそなえ、その他の列間部には上方だけに小顆粒と長毛をそなえる。第 8 列間部にあたる後縁近くには先端の丸まった円錐形の突起をそなえる。

雌の頭部は前顔が凹まず皺を欠く。中央縦線はやや長く、表面の皺はより細かい。前胸背の中央縦線の先端は分岐せず、この部分に密な小点刻群よりなる心臓形の斑紋をそなえる。翅鞘は長く、点列部は狭く浅く凹み点列状。列間部は幅広く弱く隆起し、斜面部上縁で隆起しない。基部の小顆粒は小さく密で広く

分布する。斜面部近くの後部は弱く傾斜し、点列部、列間部ともに不明瞭、不規則に浅い大点刻と小点刻、剛毛をそなえる。斜面部は急で上縁とは八の字形の凹みで境され、表面は微細点刻とやや細かい毛を非常に密にそなえる。

寄生樹種：ラワン、メルサワ、ゴムノキ、メランチ、西イリアン材。

分 布：フィリピン、ボルネオ、マラヤ、スンバワ、スマトラ、セレベス、ニューギニア。

Platypus jansoni CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 33, 244~245 (♂, ♀)

体長は雄 4.5~5.4 mm, 雌 5.3~5.8 mm。赤褐色, 翅鞘斜面部は黒褐色, 複眼は黒色。光沢は強いが、頭部、斜面部では欠く。

頭部の中央部は幅広くやや浅く凹み、全面に密で不規則な皺をそなえる。

前胸背の長さは幅よりやや長い。側縁は浅くえぐられ、穹入部の後角は丸まる。背面は微細な点刻を疎にそなえるが、基部ではやや大きい点刻を密布する。中央縦線は短く基縁に達せず、前方で2分岐する。点刻斑は欠く。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{3}{4}$ 倍。側縁は後方に広がり、その後単純に丸まる。点列部は深く凹み条溝をなし、浅いが明瞭な点刻をそなえる。列間部はやや幅広く隆起し、微細な点刻と基方では小顆粒をそなえ、後方は斜面部近くで細くなり高まる。斜面部はやや急かつ中高で鮫肌状。点列部の上半は明瞭で狭く凹む。列間部は上半部で弱く隆起し、ほぼ全体に小顆粒列と長毛をそなえる。後方 $1/3$ の両側には小突起をそなえる。

雌の頭部はより粗造。中央縦線は長い。前胸背はやや細長く、点刻はより密、中央縦線は分岐せず、密なやや大きい点刻からなる心臓形の点刻斑をそなえる。翅鞘の点列部はやや浅い。列間部はやや幅広く、後方で狭まらずかつ高まらない。基部にある小顆粒は大きく密。斜面部は2段となり、上段は大きさの違った大きな点刻を密にそなえ、剛毛は雄より密で短い。下段は後縁の丸まった三角形で側方には大きな凹陥部をそなえ、表面は粗造で短毛を密生する。

寄生樹種：ソラン材、ラワン、メランチ、インドネシア材、ニューギニア材、マトア、ソロモン材、エリマ、タウン。

分 布：フィリピン、カリマンタン、セレベス、ビルマ、モルッカ群島、オーストラリア、ニューギニア、ソロモン群島、ニューブリテン。

Platypus australis CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 26, 240 (♀)

-*P. crenatus* CHAPUIS, 1865, t. c., pp. 32, 287 (♂)

体長は雄 5.1~5.5 mm, 雌 5.3~5.6 mm。暗赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の大半は暗褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は点状、その上方は縦に幅広く凹む。表面は鮫肌状で不規則な皺をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁はやや弱くえぐられる。背面は小点刻を密にそなえるが中央縦線

前方のものは大きくなる。中央縦線は中央部から後方に延びるが基縁には達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁は中央付近まで後方に広がり、その後狭まる。点列部は浅く狭い条溝をなす。列間部は狭く、弱く隆起し小点刻をそなえる。第 1, 2 列間部は基方を除き光沢を欠き、長毛を持った微小顆粒列を有する。第 2 列間部は低い。第 3 列間部は幅広く隆起し、後方は光沢を欠き、後方 $3/4$ は長毛列をそなえる。第 4 列間部より外方の列間部は中央部から光沢を欠き長毛列をそなえる。いずれの列間部も後方に丸い小顆粒をそなえる。斜面部は卵形で凹み、上縁を除き縁は隆起し、小顆粒を疎にそなえ、長毛を生ずる。後縁会合線は長三角形に凹み、小点刻を密布し、やや長い剛毛を房状に生ずる。

雌の頭部は弱く隆起し、凹陷部を欠く。触角着生部の内方は明らかに隆起する。前胸背はやや細長い。中央縦線の先端から基縁までには長卵形の点刻群をそなえる。翅鞘の点列部は点刻列よりなる。列間部は幅広く、いずれも同じ状態で光沢があるが、後方では微細に点刻されて光沢を欠く。斜面部は急で丸く傾斜し中高。

寄生樹種：オーストラリア・ウォルナット、カレン材。

分 布：オーストラリア。

Platypus planodeclivis SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 206 (♂)

体長は雄 2.5~2.7 mm, 雌 2.6 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘斜面部は黒褐色。光沢は強いが斜面部では弱い。

頭部はほとんど平坦で触角着生部間が弱く横に隆起する。中央縦線は短く弱く凹む。表面は鮫肌状、全面に大きな点刻をそなえる。前顔は平滑で光沢がある。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁は基方 $1/4$ を中心に深くえぐられ、その後方は角ばる。背面は微細な皺をそなえ、小点刻を疎にそなえる。中央縦線は短く基部に達せず、小点刻からなるやや幅広い心臓形の斑紋をそなえる。

翅鞘はやや扁平、長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。点列部は細長い点刻の列からなり狭く弱く凹む。列間部は幅広く、かすかに隆起する。表面は細かい斜めの皺を有し、弱い凹凸がある。第 1, 3 列間部には疎な毛列をそなえ、第 3 列間部は幅広く点刻をそなえる。斜面部は翅鞘の中央部後方から始まり、ゆるく中高。点列部は弱く凹み、列間部は狭まるがいずれも不明瞭で、不規則な鱗毛をそなえる。斜面部下方は楕円形に弱く凹み、傾斜は急となる。その凹みの上縁側方には不明瞭な小突起をそなえる。後側角は明瞭、後縁の会合線には三角形の凹みをそなえる。

雌の頭部の点刻はより密。前胸背の点刻斑は大きい。翅鞘の側縁はずっと後方まで平行する。斜面部はほぼ翅鞘の後方 $1/3$ から始まりより急。

寄生樹種：ラワン。

分 布：フィリピン、カリマンタン、マラヤ。

P. ptocoides との区別点に本種は翅鞘後縁の会合線部に凹みを欠くとあるが、SCHEDL の同定した標本では凹みをそなえている。

Platypus ptochoides SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 367~368 (♂)

本種は *P. planodeclivis* に類似し、この虫の *paratypes* の中に *P. planodeclivis* と考えられる個体も含まれているが、主な差異点は次の通りである。

体長は雄 2.2~2.7 mm。翅鞘の側縁はほとんど平行。後縁は幅広く丸まる。背面はより円筒形。斜面部はより後方から始まる。後縁側方にはわずかなえぐれがある。斜面部上方の点列部はより明瞭に凹む。

寄生樹種：ラワン。

分 布：フィリピン、モルッカ群島。

Platypus biflexuosus SCHEDL

SCHEDL, 1962, Ind. For. Rec. N. S., 10 : 163, 164 (♂); SCHEDL, 1967, Ent. Tidskr., 88 : 161~162 (♀)

体長は雄 3.3~3.5 mm, 雌 3.6~3.8 mm。暗赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘は後端を除き黄褐色でほぼ透明。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は短く、周辺は小さく凹む。表面は鮫肌状、縦の不規則な皺をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁は中央を中心に深くえぐられる。背面は前方で非常に密な、後方で疎な点刻をそなえる。中央縦線はやや短く、浅く凹み基縁に達しない。この前方は細長く隆起し点刻を欠く。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{7}$ 倍。側縁はわずかに広がり、後方 $1/3$ は丸く狭まる。後縁は下側に突出する。点列部は狭く、疎な点刻列をなし凹まない。第 1 点列部は点条をなし浅く凹む。列間部は基部においてやや隆起し、点刻はほとんど認められない。後部は水平で斜面部を形成せず、側方には短毛をそなえる。後縁両側は後側下方に強く突出し、その後面は細長い新月状となり、短毛を密生し、側方先端は尖る。

雌の頭部は鮫肌状、微細な点刻を疎にそなえる。前胸背はより細長く、外縁はより浅くえぐられる。背面は微細な鮫肌状。中央縦線側方から前縁近くには密な微細点刻群からなる長楕円形の斑紋をそなえる。前方正中線は点刻を欠き、わずかに隆起する。翅鞘の第 3 列間部は基部で広がって隆起し、小顆粒を密にそなえ、その側方にも横皺状の突起をそなえる。斜面部は丸く傾斜し短毛を有する。後方の突起は欠く。

寄生樹種：マラヤ材。

分 布：ベトナム、マラヤ、インド。

Platypus obscurus SCHEDL

SCHEDL, 1971, Oriental Insects, 5/3 : 393~394 (♂)

体長は雄 5.5 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後方は暗褐色, 光沢は強いが、翅鞘の後方では欠く。

頭部は中央部正中線を中心に広く凹み、中央部は深い。中央縦線は不明瞭。表面は大きな点刻と皺を密布する。前顔は平滑で点刻をそなえる。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は中央部の後方を中心に浅くえぐられ、弯入部の後方は狭まる。背面は浅い小点刻を密布する。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{7}{8}$ 倍。側縁は前半部が後方に広がり、その後弱く丸く狭まり、後端近くでくびれ後縁は突出する。点列部の基方 $2/3$ は狭く、弱く凹んだ点刻列からなり、基縁近くで広がる。後方 $1/3$ の点列部は浅い条溝、その側方は線状に隆起し後方で消失する。列間部は基方で強く、その後弱く隆起し小点刻をやや密にそなえる。後方は弱く傾斜し光沢を欠き粗造となる。斜面部は急で長楕円形、上縁を除き縁取られる。会合線部は三角形に凹む。表面は隆起し、微小顆粒と短毛をそなえる。

寄生樹種：ジョンコン、インドネシア材。

分 布：フィリピン、サラワク、カリマンタン、ジャバ。

Platypus oneratus SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 366 (♂)

体長は雄 2.3~2.8 mm, 雌 2.6 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方、腹部は暗褐色。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は短く弱く凹む。表面は微細な鮫肌状、微小点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁は中央部において狭いが深くえぐられ、その後方は側方に広がる。背面はやや大きな点刻をそなえ、基部では密になり、全面に密な細かい皺をそなえる。中央縦線は短く弱く凹むが基縁に達せず、大きな点刻よりなる心臟形の斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の 2 倍よりわずかに長い。側縁は中央部の後方まで広がり、その後丸まることなく狭まる。後端は強く突出し、会合線部は凹む。点列部は点条をなす。列間部は幅広く、基半部は弱く隆起し、基方に広がり、やや大きな点刻をそなえる。中央部より後方ではほとんど隆起せず、鮫肌状で短毛を生ずる。第 1 列間部は狭い。第 2 列間部は他のものより幅広い。斜面部はほとんど形成せず、わずかに傾斜し短毛を生ずる。後端は後方に突出し、ほぼ垂直に截断され新月状、その両側は下方に鋭く突出する。腹部第 5 節の中央は縦に凹む。

雌は前胸背、翅鞘（後方を除く）が淡褐色ないし黄褐色。

前頭はやや隆起する。前胸背はやや短く、背面の点刻は細かい。中央縦線には明瞭な点刻よりなる楕円形の斑紋をそなえ、その前方の点刻は大きい。翅鞘はやや細長く、側縁は中央部まで広がり、その後方は弱く狭まり、後縁近くで丸まる。点列部は第 1 点列部を除き不明瞭。基方には瓦状突起をそなえる。後部は不規則な点刻と短毛を生じ、漸次斜面部に移行する。斜面部は垂直に近く、ほぼ半円形、下縁は 2 波状をなす。表面は鮫肌状、小顆粒と短毛をそなえる。

寄生樹種：ラワン、カンボジア材。

分 布：フィリピン、サバ、カンボジア。

Platypus xylographus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 204, 216 (♂)

体長は雄 5.5~5.8 mm, 暗赤褐色、複眼は黒色。光沢は強い。

頭部は中央縦線を中心に広く圧せられる。中央縦線はやや明瞭。表面は鮫肌状、浅いが大きい点刻を密にそなえ、上方のものは大きくなる。

前胸背は幅よりわずかに長い。側縁は中央部の後方で丸くえぐられ、彎入部の後角は角ばって突出する。背面は微細な皺をそなえ、点刻は大きくやや密で前方のものは小さくなる。前方には長毛を疎にそな

える。中央縦線は長く基縁には達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{3}$ 倍。側縁の基半部は平行し、その後方は徐々に狭まる。後縁の突起は長く、多少下方に曲がる。点列部は点条で細いが強く凹み、後方では浅くなる。列間部は広く、基方で隆起し、明瞭な点刻をそなえるが、後方では鮫肌状で1列の小顆粒と剛毛を生ずる。斜面部にあたる後縁の突起部は会合線に沿って凹み、その側方は隆起する。突起部の背面は鮫肌状で剛毛の生じた大きな点刻をそなえる。先端は中央部にU字形の凹みをそなえ、その両側は2分岐し突る。その外方の突起は内方の突起より長い。

寄生樹種：トウヒ、マツ。

分 布：支那（台湾）。

Platypus solidus WALKER

WALKER, 1858, Ann. Mag. Nat. Hist., (3)2 : 286 (♂)

= *P. pilifrons* CHAPUIS, 1865, Monogr. Platpy., pp. 26, 265~267 (♀)

体長は雄 3.7~4.0 mm, 雌 3.5~4.3 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部は前頭から頭蓋にかけて凹み、中央縦線はさらに短く凹む。表面は鮫肌状で不規則な縦皺を密にそなえる。前顔は光沢強く小点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅より大きい。側縁は中央部がやや深くえぐられる。背面は明瞭な点刻をやや密にそなえる。中央縦線はやや短く基縁に達せず、先端は分岐する。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{3}$ 倍。側縁は中央前方まで広がり、その後方はゆるい波状をなして狭まる。点列部は点条で狭く、明瞭に凹む。列間部は広く、弱く隆起し、不規則に並んだ明瞭な点刻をそなえ、基方の点刻は大きくなる。両側が狭まり傾斜するあたりから後方の列間部は低く鮫肌状となり毛列をそなえる。後縁は細長く突出し、会合線部は狭いが深く割れる。それぞれの先端は長三角形に下後方に突出し、その外方には小さな歯がある。

雌の頭部は楕円形に凹み、表面は微細に粗造、押圧部の下方、側方には短毛を密生する。前胸背の点刻斑はほぼ心臓形で前方両側に各1~2個の小孔をそなえる。翅鞘の側縁前方は約 $\frac{3}{5}$ まで平行し、その後丸まる。後縁は側縁と弱く角をなすが突出しない。点列部は前半わずかに凹む。列間部はより幅広く、弱く隆起し、点刻は後方を除き不明瞭。第3、5列間部は基部で隆起する。斜面部は急で楕円形、短毛を疎にそなえる。

寄生樹種：ソラン材、ラワン、パルダオ材、メルクシマツ、ニューブリテン材。

分 布：日本、朝鮮、支那（台湾）、フィリピン、ボルネオ、ビルマ、ベトナム、マラヤ、スマトラ、ジャバ、セレベス、モルッカ群島、セイロン、印度、アルー島、ニューブリテン、ニューギニア、オーストラリア、ソロモン群島、南マリアナ群島、ガム島、カロリン群島、マリアナ群島。

Platypus subdepressus SCHEDL

SCHEDL, 1935, Philip. Journ. Sci., 56 : 397 (♂, ♀)

体長は雄 4.6 mm, 雌 4.9 mm。暗赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は黒褐色。光沢は強い。

頭部は中高、触角着生部内方から複眼にかけて隆起線がある。中央縦線は短く、長楕円形で黒い。表面

は鮫肌状，中央は平滑，上方は浅いが大きな点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅より大きい。側縁は中央部でやや浅くえぐられ，弯入部の後角は突出する。背面は明瞭な点刻をやや密にそなえる。中央縦線は短くわずかに凹み基縁に達しない。

翅鞘の長さは幅のほぼ 2 倍。側縁は基方 3/4 まで後方に広がり，その後方は狭まる。点列部は狭く深く凹んだ点条をなす。列間部は広くわずかに隆起する。第 3～5 列間部は基方で隆起する。表面は基方に密に，後方に疎な明瞭な点刻をそなえる。後方はゆるく傾斜し，点列部は消失し，微細な鮫肌状で光沢を欠き，小顆粒と剛毛をそなえる。斜面部は背面と段がつき，後縁が円く弯入し，バナナ形，外後角には 3 鋸歯をそなえる。表面は圧せられ鮫肌状で剛毛を疎にそなえる。腹部第 5 節腹面の後方両側は瘤状に隆起する。

雌の頭部前面は中央部の隆起がやや高く，中央縦線は細く長い。点刻はより深く密。上方にはやや密な剛毛をそなえる。前胸背は細長く，側縁の弯入部の後角はほとんど突出しない。表面の点刻は不明瞭。中央縦線の側方にはやや大きな点刻からなる卵形の斑紋をそなえる。翅鞘は少し短く，点列部は第 1 点刻部を除き浅くなるが基方で広がり基縁に達しない。列間部は基方で高まる。後方は鮫肌状をなさず，浅い点刻をそなえ粗造。光沢は雄より強い。斜面部は雄よりはるかに狭く新月形，光沢があり，後側角は鈍く下後方に突出する。

寄生樹種：ラワン。

分 布：フィリピン，ボルネオ，インド。

Platypus contaminatus BLANDFORD

BLANDFORD, 1894, Trans. Ent. Soc. London, 1894 : 131~132 (♂); MURAYAMA, 1936, Tenthredo, 1 : 146~147 (♀)

体長は 5.3~5.4 mm。暗赤褐色，複眼は黒色。光沢は強い。

頭部は平坦。中央縦線は短く凹む。表面は鮫肌状で明瞭な点刻をそなえるが，上方のものは細長くなる。

前胸背の長さは幅より少し大きい。側縁は中央部の後方でわずかにえぐられ，その後角は突出しない。背面は中央縦線の前方に馬蹄形の弱い押圧部があり，これから前方に浅いが大きな点刻をそなえる。他の部分の点刻は細かく疎であるが，側方，前方のものはやや強くなる。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{4}$ 倍。側縁は中央部で幅広く，前後方に狭まる。点列部は細かいが明瞭な点条をなし，基方で幅広く，深くなる。第 1 点列部は全体が凹む。列間部は幅広く，わずかに中高で，いずれも基縁に達する。基方には微小点刻を，後方には大きな点刻と剛毛をそなえ粗造。斜面部はほぼ垂直に近く，細長い新月形をなし，後側角は突出する。上縁は背面と角をなす。表面は弱く凹み，光沢はやや少なく，剛毛をもった小顆粒を疎にそなえる。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：日本，支那（台湾，福建），ヒマラヤ。

Platypus turcicus SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 366~367 (♂)

体長は雄 3.7 mm。暗赤褐色，複眼は黒色，翅鞘の後方は黒褐色。光沢は強い。

頭部はわずかに中高。触角着生部内方には丸い隆起部がある。中央縦線は複眼の下縁を結んだ線から頭蓋に長く伸び顕著に隆起する。表面は鮫肌状，下方には円形の小さい点刻を，上方には幅広い不整形の皺状の印刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{3}$ 倍。側縁は中央部の後方で浅くえぐられ，彎入部の後角は角ばり強く突出する。背面は明瞭な点刻をそなえ，側方に密となる。中央縦線はやや短く弱く凹み，後縁に達せず，この両側には約 10 個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{6}$ 倍。側縁は中央後方で最も幅広く，後縁まで徐々に狭まる。点列部は凹んだ狭い点条となり，第 1 と 2，3 と 4 点列部は基方で少し広がり，互に連結する。列間部は幅広く，基方で点刻される。第 1，3，5 列間部は基方で高まる。第 2，4 列間部は基縁に達しない。斜面部近くは不規則に密に点刻され，疎な剛毛を生じ，会合線部は凹む。斜面部は背面から徐々に丸まり，斜に截断され，幅狭い新月状。会合線の両側は凹み，両側端は長三角形状に大きく下後方に突出する。会合線部は細く圧せられ，その先端両側にはほぼ三角形のやや大きな突起をそなえる。表面は小顆粒と剛毛をそなえる。

寄生樹種：ニューギニア材。

分 布：ニューギニア。

Platypus carbonescens BEESON

BEESON, 1937, Ind. For. Rec., N. S., (3)3 : 100~101 (♂, ♀)

雄の体長は 3.9 mm，雌 4.4 mm。赤褐色。複眼は黒色，翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強いが翅鞘の後方ではこれを欠く。

頭部の前面は短い中央縦線を中心に浅く凹む。表面は鮫肌状で粗造。

前胸背の長さは幅より少し大きい。側縁は中央部後方で深くえぐられ，彎入部の後方は突出する。背面は明瞭な点刻を密にそなえ，前縁，基縁のものはより大きく密となる。中央縦線は短く基縁に達しない。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。点列部は点条をなし，基方は浅く凹む。列間部は幅広く，弱く隆起し，点刻をそなえる。第 3，5 列間部は基方で高まり広がる。第 2，4 列間部は基方でわずかに狭まり，基縁に達しない。会合線近くの列間部では翅鞘の中央より，側方のものでは翅鞘が後方に狭まる付近より後方で鮫肌状をなし，点列部は深く凹み，列間部は狭まり密な毛列をそなえる。後方は弱く傾斜し，後端近くで斜めに傾く。後縁は外方に小突起を，その内方に長三角形の突起を有する。長三角形突起の内方は丸くえぐられる。内方突起の上方には円錐状の突起をそなえる。

雌の前頭には点刻が認められる。前胸背の点刻ははなはだ密。中央縦線は小点刻よりなる円形の斑紋をそなえ，この部分は少し圧せられる。翅鞘はやや短い。点列部は少し深く，列間部はわずかに隆起する。第 3，5 列間部は基方に小顆粒群をそなえる。基縁は第 1~5 列間部の間が反転する。翅鞘の後方は鮫肌状をなせず，点列部は背面と同様。列間部には小顆粒と短毛を生ずる。斜面部はややゆるく，中高，上縁は丸まり，後縁はほぼ一直線で突起を欠く。表面は鮫肌状，小顆粒と短毛をそなえる。

寄生樹種：オーストラリア・ウォルナット。

分 布：オーストラリア。

Platypus indicus STROHMEYER

STROHMEYER, 1910, Ent. Blätt., 6: 131~132 (♂); SAMPSON, 1922, Ann. Mag. Nat. Hist., 9: 146 (♀)

体長は雄 3.3~3.9 mm, 雌 4.0 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後半は黒褐色, 光沢は強い。

頭部は縦に幅広く圧せられ, 中央縦線は短い。前頭は下方に不明瞭な細点刻を, 上方に大きく浅い長楕円形の点刻を, 側方に不規則な縦皺を密布する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{3}$ 倍。側縁は中央部の後方を中心に深くえぐられ, その後方は突出する。背面は大きさの異った点刻をやや密にそなえ, 前縁と後縁のものはなはだ密となる。中央縦線は基縁に達せず, 側方には 1~2 列に並んだ約 12 個の小孔をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{5}{6}$ 倍。側縁は後方にわずかに狭まり, 後縁近くで急に丸まる。点列部は浅いが幅広い条溝で, 後方において広がり小点刻列がある。列間部はやや狭く, 後方で更に狭まりかつ高まり, 斜面部の前方から小顆粒列と剛毛列に変わり斜面部に移行する。基方は点刻と縦皺をそなえる。第 1 列間部は短く翅鞘長の半分より後方から点列状となる。第 2, 4 列間部は第 3 列間部よりも短く, 第 6 列間部は第 5 列間部よりも短い。斜面部はやや急でほとんど平坦。会合線部は帯状に隆起する。上縁部は背面後方と同じ構造であるが, 他は小顆粒と短毛があり, ほとんど列状と認められない。外縁には大きな 3 突起と後縁会合線部に丸い突起をそなえる。

雌の頭部は平坦。中央縦線は雄より長く上方は凹み, 下方は隆起する。表面は浅いが粗大な点刻と長毛をやや密にそなえる。前胸背は雄よりも細長く, 背面前半の点刻ははなはだ密。中央縦線の側方の小孔は不規則で数が多く片側に約 50 個。翅鞘の点列部は点列状で狭く, 列間部は後方で高まらず, 不規則な浅い印刻におおわれ不明瞭となる。点列部は第 2 点列部を除きほとんど凹まない。第 3 列間部は基部で広がり隆起し小顆粒を密布する。斜面部はやや急で扁平な五角形。後縁は直線状。表面は細かく凸凹となり短毛を密生する。

寄生樹種：カン材。

分 布：支那（台湾）, ボルネオ, トンキン, インド。

Platypus transformis SCHEDL

SCHEDL, 1936, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 18: 16 (♂); SCHEDL, 1971, Oriental Insects, 5/3: 396, 397 (♀)

体長は雄 1.8~2.2 mm, 雌 2.3~2.4 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘後方は黒ずむ。光沢は強い。

頭部は平坦, 中央部で縦にわずかに凹む。中央縦線は短い。表面は鮫肌状, 不規則な縦皺をそなえる。前顔は点刻される。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。側縁の中央部はやや深くえぐられ, 彎入部の後角は外方に膨らむ。背面は大きな点刻を密にそなえる。中央縦線は基縁に達せず, 側方に 3~5 個の小孔を列状にそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{5}{6}$ 倍。基縁は強く竜骨状に隆起し, 側縁は後縁近くまで後方に広がる。点列部は深い条溝で後方に広がり, 基方は点条となる。列間部は斜面上縁で隆起するが後方に突出しない。第 3, 5 列間部は広く, 後方には明瞭な点刻をそなえる。第 3 列間部は基部で隆起する。斜面部は急で下方

に延び、ほぼ円形で中高。上縁中央部は第1, 2列間部が凹み、その側方は隆起する。中央部上方の左右には円錐形の突起をそなえる。表面は鮫肌状、突起の下方には剛毛をもった小顆粒をそなえる。後側縁には鋸歯状の大きな突起をそなえる。

雌の翅鞘は淡黄褐色。基部、会合線両側、側縁は赤褐色、斜面部近くから後方は黒褐色。頭部前面は全体に弱く凹み、粗造で上半には上に向いた長い毛をやや密にそなえる。前胸背の背面は鮫肌状、点刻はやや小さく、中央縦線には約23個の小孔からなる長楕円形の斑紋をそなえる。翅鞘は雄より長く、後方は徐々に低くなり斜面部に移行する。前縁の龍骨状隆起はやや弱い。第1点列部のみ点条をなす。列間部は不明瞭で点刻を欠くが後方では鮫肌状をなし点刻をそなえる。第3列間部は基方で広がり隆起し、小瓦状突起を密にそなえる。斜面部はゆるくかつ中高。上縁は会合線に沿って凹み、下方左右に浅い凹陷部がある。後縁中央部は凹む。表面は鮫肌状、剛毛をもった小顆粒をそなえる。

寄生樹種：ラワン、スエラヤ。

分 布：フィリピン、サバ、サラワク、カリマンタン、スマトラ、セレベス、セイロン。

Platypus fallax SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4): 367 (♂)

体長は雄2.4 mm。赤褐色、複眼は黒色。翅鞘は黄褐色で後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部は中高、下方に横の凹みをそなえる。触角着生部内方には斜の隆起がある。中央縦線は黒くやや長い。表面は鮫肌状、明瞭な点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁はほぼ中央部で深くえぐられ、その後方は強く膨らむ。背面は明瞭な点刻をやや疎にそなえる。中央縦線は長く弱く凹み、長楕円形の点刻斑をそなえるこの点刻の前方のものは小さく、後方のものは大きくなる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁は斜面部まで後方に広がる。第1, 2点列部では中央から後方、その他の点列部ではより後方で細かい点刻の列となる。斜面部はほぼ円形、斜めに截断され、背面とは角をなすが、その前方は膨らまない。後縁は会合線に沿ってわずかな凹みがあり、その後方には小さな歯状突起がある。中央部会合線両側には小さな瘤起がある。表面は鮫肌状、光沢が弱く、短毛の生じた微小顆粒を有する。

寄生樹種：セラヤ。

分 布：サバ。

Platypus forficula CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 40, 283 (♂); SCHEDL, 1960, Inst. R. Sci. Nat. Belg. Mém. 2° S., Fasc., 62: 54 (♀)

体長は雄3.3~3.9 mm, 雌3.3~3.8 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は暗赤褐色。

頭部はわずかに中高か平坦。前顔は横に弱く凹む。中央縦線は短く凹む。表面は鮫肌状をなし大きい浅い点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁の中央後方は深くえぐられ、その後角は丸く凸出する。背面は中庸、微小2種の点刻を密にそなえ、側方は特に密となる。中央縦線はやや短く凹み、前半側方に約8個の

点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{2}$ 倍。側縁は中央部の後方において最大幅となり、斜面部の前方でくびれ後方に広がる。斜面部前方はリング状にわずかに隆起する。点列部は小さく疎な点刻列からなる。第 1 点列部は浅く狭く凹み、点条をなす。列間部は広く、細点刻をそなえるが中央部ではほとんどこれを欠き、後方では短毛をそなえる。第 2, 3 列間部は基縁に達しない。第 3 列間部は基方で高くなり広がる。第 5 列間部は基方で高まる。翅鞘の後方リング状隆起部は不規則な小点刻と短毛をそなえる。斜面部は垂直に近く截断され、後縁は深く、幅広く弯入し、新月形となる。後側角の突起は長く、その基部内方にはくびれを有する。後縁会合線部はわずかに突出する。上側縁は龍骨状に縁取られず幅広く隆起する。表面は圧せられ、小顆粒と短毛をそなえる。

寄生樹種：パロサビス、セラヤ、ラワン、ラミン、スマトラ材、メランチ、サンホン材、カプール、カユランガス、マトア、タウン、インドネシア材。

分 布：支那（台湾）、フィリピン、サバ、サラワク、カリマンタン、セレベス、モルッカ群島、タイ、ビルマ、トンキン、マラヤ、スマトラ、メンタワイ群島、ジャバ、インド、セイロン、オーストラリア、ニューギニア、ニューブリテン、ビスマルク。

Platypus omega SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 365~366 (♂)

体長は雄 3.6~4.0 mm, 雌 4.1 mm。赤褐色、複眼斜面部周辺の縁取りは黒色、翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部は平坦かわずかに圧せられる。中央縦縁前半部は低い丸く隆起する。表面は絞肌状で不規則な大きさの点刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁の中央部後方は浅くえぐられ、弯入部の後角は弱く突出する。背面は小さな点刻をそなえるが、前、側、基方のものは大きく密となる。中央縦線は短く、わずかに凹み、小さな点刻斑をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{3}$ 倍。側縁は中央部前方まで広がり、その後狭まり、後方近くで大きくくびれ膨らむ。斜面部の前方はリング状に大きく膨隆する。第 1 点列部は狭い点条、他の点列部は小さい点刻列からなるが後方の点刻は大きくなる。列間部は広く、前方と後方に明瞭な点刻をそなえる。第 3 列間部は基方で広がり高まる。第 5 列間部は狭まるが弱く高まる。斜面部前方の隆起部はほとんど平滑でわずかに微小な点刻と短毛をそなえる。斜面部はほぼ垂直に截断され円形。下方の突起部は斜後方に延びる。後縁は中央部近くまでほぼ方形に幅広く弯入する。弯入部の側縁は波状に内方に出っぱり、上側外角は丸まり、会合線部は弱く突出する。上縁は龍骨状に縁取られる。内方はすり鉢形に圧せられ、その中央部上方は会合線に沿って弱く隆起する。表面は疎な小点刻と剛毛をそなえ、光沢は強い。

雌の頭部前面はやや細長い。前胸背の側縁の弯入部は浅い。点刻群は長楕円形。翅鞘の側縁は前方 $2/3$ が後方に弱く広がり、その後方は狭まり、リング状の膨隆部をそなえない。列間部は基方で弱く隆起し、小顆粒群をそなえる。斜面部は腎臓形で上、側縁は弱く隆起するが角ばらない。後側角は鈍く尖る。表面は強く凹まず、剛毛の生えた小顆粒と小点刻をそなえる。

寄生樹種：セペティル。

分 布：マラヤ。

Platypus cupulatus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 39, 273~279 (♂, ♀)

体長は雄 4.1~5.0 mm, 雌 4.4~5.1 mm。赤褐色, 複眼は黒色, 翅鞘の後方は黒褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線はやや長くわずかに凹む。表面は鮫肌状で点刻状の小さな凹みを密にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁は中央部の後方で深くえぐられ, その後方から基方に強く狭まる。背面は明瞭な点刻をそなえ, 前側, 基方では大きく密となる。中央縦線はやや短く凹み, 側方には中央部の点刻と同じ大きさの数個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{5}$ 倍。側縁はほぼ中央部で膨らみ, その後方でわずかにくびれ膨らむ。点列部は狭く, 一般に明瞭な点刻列からなり, 前方では点条となる。後方の点列は大きくなる。列間部は広くわずかに隆起し, 明瞭な点刻をそなえる。第 1 列間部は狭い。第 3, 5 列間部基方では高まり広がり, かつ小点刻を密にそなえる。第 4 列間部は基方で狭まり基縁に達しない。斜面部の前方は平らに隆起し, 点刻を欠き平滑であるが, 前方には大きな点刻をそなえる。斜面部は鋭く截断され, 下方に歪んだ円形, すり鉢形に深く凹み, 中央部会合線から下方は隆起する。周辺は鋭く角ばり短毛をそなえる。後縁の中央部には深い長三角形の湾入部をそなえる。これは中央部に達せず縁はわずかに波状となり短毛をそなえる。表面は光沢がやや弱く, 点刻が認められるが無毛。

雌の頭部は雄より狭く, 点刻状の凹みはより深く, 上方に向いた長い剛毛をそなえる。前胸背はやや太短い。背面の点刻は雄より大きい。中央縦線は長く, 大きく密な点刻よりなる楕円形の斑紋をそなえる。翅鞘は後方でくびれ膨らむことはなく短毛を生ずる。点列部はほとんど基部まで点刻列からなり, 点刻は弱く疎。後方は不規則に点刻される。斜面部前方は会合線に沿って凹む。斜面部は急で, 上方 $1/3$ は半円形。後側角は強く丸まる。後縁には幅広い鈍三角形の凹みをそなえる。上側縁は丸く隆起し, 粗大な点刻を密にそなえる。表面は多少の隆起が認められるがほぼ平坦で大きな点刻を密布し短毛をそなえる。湾入部側方は弱く後方に反転する。

寄生樹種：ソラン, ラワン, グバス材, クリン, サラワク材, ラミン, インドネシア材, レインツリー, キャンプ材, ゴムノキ, メルサワ, メルクシマツ。

分 布：フィリピン, サバ, サラワク, カリマンタン, タイ, ビルマ, ベトナム, マラヤ, スマトラ, ジャバ, モルッカ群島, インド, ニューギニア, スンダ群島, アンダマン群島。

Platypus lepidus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 40, 282~283 (♂, ♀)

体長は雄 3.6 mm, 雌 3.6 mm。赤褐色, 複眼は黒色。翅鞘は斜面部の前方から後方にかけて黒褐色。光沢は強い。

頭部は広く平坦。中央縦線はやや長く凹む。表面は鮫肌状, 浅いが大きく密な点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁は中央部でえぐられ, 湾入部の後角は弱く広がる。背面は大きな点刻をそなえ, 後方, 側方に密になる。中央縦線は長く前方に幅広くなる。点刻斑は不明瞭。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。側縁は中央部で最も広く、後方にわずかに狭まり、斜面部前方でくびれ再び広がる。列間部は幅広く、小点刻をそなえる。この点刻は基方では密に後方では大きくなる。第 2, 4 列間部は基方で狭まり基縁に達しない。第 3, 5 列間部は基方で高まり、第 1 列間部と基縁で連絡する。第 3, 4, 5 列間部の基方には小顆粒をそなえる。翅鞘の後方は斜面部の前方から漸次高まり、大きな点刻を密にそなえるが、斜面上縁近くになると点刻を欠き平滑となる。斜面部は上からみてほぼ一直線の上縁をもち、垂直に截断され、ほぼ円形、下端突起部は後下方に突出する。周辺は高く龍骨状に縁取られ、短毛をそなえる。後縁は丸く湾入し、更にその会合線は長三角形に湾入するが中央部まで達しない。湾入部両側下縁は後方に反転する。表面は強く押圧されるが会合線は弱く高まり、剛毛、点刻を欠き光沢は弱い。

雌の翅鞘は黄褐色、斜面部は赤褐色。頭部は雄より狭く、点刻は密。前胸背の側縁湾入部はより深い。中央縦線部は長心臓形の密なやや大きい点刻からなる斑紋をそなえる。翅鞘はわずかに短く、側縁は斜面部近くでくびれない。背面の点刻は雄より不明瞭。後方は弱く傾斜し、鮫肌状をなして短毛と大きな点刻をそなえる。斜面部は上縁が丸まるが、ほぼ垂直で下端がごくわずかに後方に延びた腎臓形。後縁は鈍三角形に凹む。後側角はやや角ばり内方による。表面は粗造で剛毛をそなえる。

寄生樹種：ラワン。

分 布：支那、フィリピン、ボルネオ、セレベス、ビルマ、トンキン、マラヤ、スマトラ、メンタワイ群島、ジャバ、インド、モルッカ群島、オーストラリア、ニューギニア。

Platypus pallidus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 284 (♀); SCHEDL, 1937, Ent. Blätt., 33: 41 (♂)

体長は雄 2.8~3.2 mm, 雌 3.2~3.3 mm。赤褐色。複眼、斜面部の龍骨状縁取り部は黒色、翅鞘後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部はかすかに隆起する。中央縦線は短く凹む。表面は鮫肌状、浅いが粗大な点刻と疎な剛毛をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁は中央部の後方で深くえぐられ、その後方は基方に狭まる。背面は細かい点刻を疎にそなえるが、基方、側方のものは密で大きくなる。中央縦線は弱く凹み、前半部両側に 5~10 個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。側縁は後方に弱く広がり、斜面部の前方で弱くくびれ膨らむ。点列部は細長い点刻の列からなり、基方は点条で深く、後方の点刻は大きい。会合線近くの 2 条は全体が点条となる。列間部は広くわずかに隆起し、点刻は疎で微細であるが基方では密に、後方では大きくなる。第 2, 4 列間部は基方で狭まり基縁に達しない。第 3 列間部は基方で高まり広がる。第 5 列間部は隆起し狭まる。斜面部前方の隆起部は明瞭な点刻を不規則にそなえる。斜面部は垂直に近く截断され、ほとんど円形、全体に凹み、中央部の両側は円形に凹む。周辺は龍骨状に縁取られるが、会合線部は角ばらず、その両側は前方に曲がる。後縁は釣鐘形に凹み、湾入部の側縁は後方に反転し、中央部には三角形の内方に延びる歯状突起をそなえる。表面は光沢を欠き明瞭な点刻、剛毛を欠く。

雌の頭部はほとんど平坦、中央縦線付近が弱く隆起する。点刻は雄より密。前胸背の点刻はより大きく密。中央縦線部にはやや大きい点刻よりなる楕円形の斑紋をそなえる。翅鞘は後方で徐々に狭まる。点列

部の点刻は疎。列間部の中央は点刻を欠き，第 3，5 列間部の基部はより強く隆起し小顆粒をそなえる。斜面部前方は会合線に沿って凹み，点刻を不規則にそなえ短毛を生ずる。斜面部は幅広いバナナ形。後縁は広くえぐられる。上側縁は丸く隆起する。表面はほぼ平坦で不整形の弱い隆起があるが，粗造で短毛を，後方に小顆粒をそなえる。

寄生樹種：ニューブリテン材，ニューギニア材。

分 布：フィリピン，ニューブリテン，ニューアイルランド区，ニューギニア。

Platypus caliculus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 27, 40, 280~281 (♂, ♀)

体長は雄 3.6~4.0 mm，雌 4.0~4.2 mm。赤褐色，複眼は黒色，翅鞘後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線は長く細くわずかに凹む。表面は鮫肌状で粗大な点刻を密布する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁はほぼ中央部で深くえぐられ，彎入部の後角は突出する。背面は明瞭な点刻をそなえ，基縁，側方に密となる。中央縦線はやや短く，基縁に達せずわずかに凹む。その側方には各数個ないし 10 個のやや大きな点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{3}{8}$ 倍。側縁は後方に広がり斜面部前方でくびれ，その後方は膨らみ斜面部側縁となる。点列部は明瞭な細長い点刻を密にそなえ，後方の点刻は大きく，基方では深い点条となる。第 1 点列部は点条となる。列間部は幅広くわずかに隆起し，基方，後方に点刻をそなえる。第 2，4，6 列間部は基方で狭まり基縁に達しない。第 3 列間部は基方で広がり第 1，5 列間部と連絡する。斜面部前方のリング状の隆起部は前方では大きな，後方では小さな点刻を不規則にそなえる。第 3~5 列間部は基方に小顆粒をそなえる。斜面部は垂直に截断され，下端は斜め後方に突出し，下縁が下方に延びた円形。上，側縁は龍骨状に縁取られる。下縁はほぼ中央部までヒョウタン形に彎入する。表面は強く圧せられ，会合線に沿って弱く隆起し，彎入部の縁は弱く反転し短毛を生ずる。

雌の体は黄褐色。頭部はやや細長く，中央縦線上方で浅く凹み，剛毛はやや長い。触角の柄節の毛はより密生する。前胸背は少し短く彎入部は少し後方に位置し，その後方は弱く突出する。中央縦線部の点刻斑は長心臓形で大きく密な点刻からなる。翅鞘は斜面部近くでくびれず均一に狭まり，リング状の隆起部を欠く。点列部は小さい点刻からなり，中央部では不明瞭。斜面部の上方は鮫肌状，小点刻と剛毛を不規則にそなえる。斜面部はやや急に斜めに截断され，腎臓形。上縁は丸まるが，その下方に半円形の凹みを有する。表面はほぼ平坦，大きな点刻を密にそなえ短毛を生ずる。

寄生樹種：ソラン材，ラワン，グバス材，メランチ，ビナン材，タン材。

分 布：支那（台湾，本土），フィリピン，サラワク，サバ，カリマンタン，セレベス，ビルマ，タイ，トンキン，カンボジア，マラヤ，スマトラ，メンタワイ群島，ジャバ，インド，モルッカ群島，ニューギニア，オーストラリア，ニューブリテン。

Platypus pseudocupulatus pseudocupulatus SCHEDL

SCHEDL, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 17: 635 (♂, ♀)

体長は雄 3.3~3.9 mm，雌 3.5~3.8 mm。赤褐色，複眼は黒色，翅鞘の後方は暗赤褐色。光沢は強い。

頭部はほぼ平坦。中央縦線はやや長い。表面は鮫肌状、幅広い縦皺状の印刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{5}$ 倍。側縁は中央部の後方で深くえぐられ、弯入部の後角は突出する。背面は明瞭な点刻をやや密にそなえ、前、側方では密となる。中央縦線はやや短く、基縁に達せず、前半側方に各約 10 個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 2 倍。側縁は後方に弱く広がり、斜面前方でくびれた後広がり、リング状の隆起部となる。点列部は明瞭な点刻列からなり、基方で深く凹みや広がる。後方の点刻は大きくなる。第 1 点列部は点条をなす。列間部はやや幅狭く、基、後方に小点刻をそなえる。第 2, 4, 6 列間部は基方で狭まる。第 4 列間部は小顆粒をそなえる。第 1, 3, 5 列間部は基方で高まり互に連絡する。第 3 列間部は広がる。後方リング状隆起部は前半に点刻をそなえるが、後半にはほとんど点刻を欠く斜面部は垂直に截断され、後縁は後下方に丸く突出して歪んだ円形となる。周辺は龍骨状に縁取られ短毛を有する。下縁は深く長三角形に弯入し、後側角は少し内方に曲がり、弯入部の側縁の中央部よりわずかに上方には内後方に向いた小歯をそなえる。表面は強く圧せられ、光沢が弱く、微細な点刻と短毛を生ずる。

雌の頭部は丸い点刻をそなえ、剛毛は雄より密で長い。前胸背の側縁弯入部の後角の突出は弱く、背面の点刻は雄よりはるかに小さい。中央縦線には非常に密な長心臓形の点刻斑をそなえる。翅鞘はやや長く、側縁はほとんど平行し後方で弱く狭まる。点列部の点刻は小さく疎。列間部は広く、基方で隆起し、小顆粒をそなえる。第 3 列間部は基方で広がる。斜面部はやや急な斜で腎臓形、上縁は丸まり、その下方に孤状の溝がある。中央部の会合線両側には小さな凹みがある。後側角の角ばりはわずかに反転する。

寄生樹種：ラワン、セラヤ、センガワン、ラミン、メランチ、サラワク材、アガティス、メルサワ、プライ。

分 布：フィリピン、サバ、カリマンタン、サラワク、セレベス、カンボジア、インドシナ、ビルマ、マラヤ、スマトラ、モルッカ群島、オーストラリア、スンバ島、ニューブリテン。

Platypus pseudocupulatus sundaensis SCHEDL

SCHEDL, 1941, Arch. Nat., 10 : 421 (♂)

本亜種は前原種と次の特徴で区別できる。

体長は雄 3.4~3.7 mm, 雌 3.6 mm。

頭部は丸い点刻におおわれる。前胸背側縁の凹陷部の後角は弱く突出する。背面の点刻は小さく疎。翅鞘はやや長く、その長さは幅の約 $2\frac{1}{7}$ 倍。列間部の点刻はより明瞭。第 2, 4 列間部は基方で強く狭まらない。後縁の弯入部は三角形で幅広く弯入し、内方の歯は鈍く、会合線部は弱い幅広く隆起する。

雌では翅鞘の第 1 列間部を除き点刻列は不明瞭。斜面部の点刻は小さい。

Platypus piniperda cambodianus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 205, 216~217 (♂, ♀)

体長は雄 4.3 mm, 雌 4.4 mm。暗赤褐色、複眼は黒色、翅鞘の後方は黒ずむ。光沢は強い。

頭部は中高、前頭はわずかに凹む。中央縦線は短い。表面は大きな浅い点刻を密にそなえるが、側方、上方では幅広い皺状の印刻となる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は中央部のわずかに後方で浅くえぐられ、弯入部の後角は弱く突出

する。背面は微細な横皺をそなえ、明瞭な点刻を密にそなえ、側方はより密となる。中央縦線は短く凹み、側前方には数個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{7}$ 倍。側縁は中央部の少し前方でわずかに広がり、斜面部前方の膨らみは弱い。第1点列部は細い点条をなし、他の点列部は点刻列からなる。点刻は中央部では疎で細かく、後方では大きく密となる。第1～5点列部は基方で顕著に広がり凹む。列間部は広く、基方で密な小点刻を、後方では点列部と同じ大きさの不規則な点刻をそなえる。第2, 4列間部は基方で狭まり基縁に達しない。第1, 3, 5列間部は基縁で連結する。斜面部前方の隆起帯は点刻される。斜面部は円弧状に斜めに截断され、ほぼ正円形で後端は幅広く丸くえぐられる。弯入部の中央両側には鈍い小歯をそなえる。上縁と側縁の上半部は弱く鈍い龍骨状となるが会合線付近は縁取られない。表面は上半圧せられるが会合線両側で幅広く隆起し、短毛と小点列を疎にそなえる。

雌の前頭は雄より凸凹が激しく、密に点刻される。前胸背は少し短い。側縁弯入部の後角はより強く突出する。点刻ははるかに疎。点刻斑は幅広い楕円形、前方中央は凹む。翅鞘は後方で狭まり、斜面部の隆起帯を欠く。点列部は基方で凹み、わずかに広がる。第2, 4列間部は基方でわずかに狭まり、第3, 5列間部は基方で隆起する。後方は点列部を欠き、浅い点刻を不規則にそなえ短毛を有す。斜面部は不正形の楕円形、後縁は盃形にえぐられる。上、側縁は龍骨状とならず丸まる。表面は中央部を中心に圧せられるが、会合線の両側は弱く隆起し、大きく浅い点刻におおわれ粗造、短毛をそなえる。

Platypus murayamaensis SCHEDL

Platypus lepidus var. *formosanus* NIIJIMA et MURAYAMA, 1925, Journ. Coll. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 15 : 214 (♂, ♀)

Platypus murayamaensis SCHEDL, 1941, Ent. Blätt., 37 : 43

体長は雄 3.1～3.6 mm, 雌 4.1 mm。茶褐色、複眼、斜面部周辺は黒色、頭部、翅鞘後方は赤褐色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦。中央縦線はやや長く凹む。表面は鮫肌状、前頭中央部、周辺部には大きな点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{7}$ 倍。側縁は中央部の後方で浅くえぐられ、その後方は丸まる。背面は小さな点刻をそなえるが側方では密となる。中央縦線はやや長く、弱く凹み、その前半両側に数個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{5}{7}$ 倍。側縁は中央部でわずかに広がり、斜面部前方でわずかにくびれ、その後方は弱く広がる。背面は会合線部を除き斜面部周辺で隆起する。点列部は疎な小点刻からなり、後方の点刻は大きくなる。第1点列部の点刻は明瞭かつ密で点条をなす。列間部は広く、基方、後方に点刻をそなえる。第1列間部は細い点条からなる。第1, 3, 5列間部は基方で高まり互いに連絡する。第2, 4列間部は基縁に達しない。斜面部前方の隆起帯はほとんど点刻されない。斜面部は斜めに截断され、勾配はややゆるやかで楕円形ないし卵形、後縁は深く弯入する。弯入部の後側端は三角形に突出した歯となり、その上方に三角形の大きな鋸歯をそなえる。会合線部は狭く割れる。上側縁は龍骨状に縁取られるが、上縁会合線部はこれを欠き低くなる。表面は全体押圧され、中央部両側がやや深く凹み、点刻はほとんどない。周辺に短毛を生ずる。

雌の頭部は幅狭く、縦に幅広く凹む。中央縦線は短い。表面は非常に密に点刻される。前胸背は少し短く、側縁弯入部はやや深い。背面は鮫肌状で、点刻は大きい。中央縦線は短く、心臟形の点刻斑をそなえる。この点刻の前方のものは極端に大きくなる。翅鞘は短く、側縁は後方で丸く狭まる。点列部の点刻は明瞭。第 1 点列部はより深い点条をなす。第 3, 5 列間部は基部に密な瓦状突起をそなえる。後方は鮫肌状で点刻を密にそなえ短毛を生ずる。斜面部は急でほぼ三角形。後縁は弧状をなし弱く突出する。周辺は丸まり縁取られない。表面は中高で微小顆粒と短毛をそなえる。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：支那（台湾）。

本種は *P. lepidus* の変種として記載されたが、SCHEDL (1941) によって別種とされ、その後、SCHEDL (1972) はこれを *P. lepidus* の異名同種とした。筆者等はこれらを次の特徴により別種として取り扱った。

本種の雄は翅鞘の斜面部上縁線は上方から見て前方に曲がり、斜面部は細長く、短毛があり、光沢が強い。斜面部後縁弯入部は 3 段になり、側縁の歯は反転しない。

Platypus maritinus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Oriental Insects, 3 : 64~65 (♂, ♀)

体長は雄 3.3 mm, 雌 3.2 mm。赤褐色、複眼は黒色、翅鞘後方は暗褐色。光沢は強い。

頭部は中高。中央縦線はやや長く、弱く凹む。表面は鮫肌状、浅い点刻を疎にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は中央部後方でえぐられ、弯入部の後方は角ばり突出する。背面は微細な鮫におおわれ、細かい点刻を不均一に密布するが、その前方のものはやや疎となる。中央縦線はやや短く、浅く凹み、前半部に三角形の点刻よりなる斑紋をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{4}$ 倍。側縁は後方 $\frac{2}{3}$ まで広がり、斜面部近くで幅狭く膨らみ、背面は後方で高まる。点列部は点列状。第 1 列間部は点刻が連なり部分的に点条となる。列間部は広く、微細な鮫を有し、不明瞭な小点刻を散在させるが、後方には大きな点刻を散布し、光沢が弱まる。斜面部前方はほとんど点刻を欠く。斜面部は急に截断され、幅広い卵形。後縁は半円形にえぐられる。弯入部は中央部まで達せず、外先端は内方に曲がる。上縁と側縁の上半部は弱く龍骨状に縁取られる。表面は弱く凹むが会合線と中央部両側に隆起部があり錨形をなし、微細な点刻と短毛を有する。

雌の頭部はほとんど平坦、点刻はやや密。前胸背はやや細長く、前縁中央部は雄より強く突出し、側縁弯入部の後角はほとんど突出しない。点刻斑はやや大きな点刻からなり中央縦線全体にわたり細長い心臟形。翅鞘の側縁は斜面部前方から狭まる。第 1 点列部はやや点条をなし、その他のものは後方だけ点刻をそなえる。後方は浅いが粗大な点刻を密にそなえ短毛を生ずる。斜面部はほぼ半円形、後側角は丸まり、後縁は長三角形に弯入する。上、側縁は丸まる。表面は上方に粗大な点刻を密に、下方に小顆粒をそなえて粗造、均一に短毛をそなえる。

寄生樹種：バカン材。

分 布：マラヤ、インド。

Platypus biuncus BLANDFORD

BLANDFORD, 1896, Trans. Ent. Soc. London, 1896 : 194~195 (♂, ♀)

体長は雄 2.5~3.2 mm, 雌 2.8~2.9 mm。茶褐色, 複眼は黒色, 頭部, 翅鞘後方は赤褐色。光沢は強い。

頭部の前面はわずかに凹む。中央縦線はやや長く凹む。表面は鮫肌状, 大きさの違った点刻を密にそなえる。

前胸背の長さは幅の $1\frac{1}{2}$ 倍。側縁は中央部の少し後方で深くえぐられ, 弯入部の後角は突出する。背面は大きさの不均一な点刻をやや密に, 側方では密にそなえる。中央縦線は長く, 前方に太くかつ浅く凹み, 前側方には数個の点刻をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 3 倍。側縁は中央部で最も広く前後に狭まり, 斜面部前方でくびれ, 後方に丸く広がったあと斜面部突起となる。背面は会合線付近を除き斜面部前方で高まる。第 1 点刻部はやや圧せられた密な点刻列よりなる。点列部は疎な小点刻列からなる。列間部は広く, 基方, 後方には小点刻をそなえる。第 3, 5 列間部は基方で隆起しかつ広がる。第 2, 4 列間部は基方で低くなり, 基縁に達しない。斜面部前方の隆起帯はやや大きい点刻を疎にそなえ剛毛を有する。斜面部はやや急でほぼ半円形, 上縁は前方に深く弯曲する。後側角は下後方に延び長三角形の長い突起となる。後縁会合線部は弱く突出する。上, 側縁は龍骨状をなさず丸まる。表面は会合線が弱く隆起するが, その側方が凹み, 大きな点刻を密にそなえ短毛を生ずる。

雌の頭部は雄に比較して狭く, 中央縦線は長く, 表面の点刻は小さく疎。前胸背はやや太短く, 側縁の弯入部は浅く, その後方はほとんど突出しない。中央縦線部は長楕円形の点刻斑をそなえる。前方の点刻は後方のものよりはるかに大きい。翅鞘は短く, 側縁は均一に後方に狭まる。点列部の点刻は小さく疎。第 3, 5 列間部の基部には瓦状小顆粒状突起を密にそなえる。斜面部近くは鮫肌状, 明瞭な点刻を密布し, 短毛をそなえる。斜面部は幅広い新月形, 中央部から後側角にかけて凹み, その凹みの上に隆起線がある。表面は微小顆粒を密にそなえ粗造で短毛を密生する。

寄生樹種: ラワン, マングローブ, セラヤ, マラヤ材。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, マラヤ。

Platypus agnatus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 206~207 (♂, ♀)

体長は雄 2.6~3.0 mm, 雌 2.8~3.0 mm。茶褐色, 複眼は黒色, 翅鞘後方, 腹部は赤褐色。光沢は強い。頭部はほとんど平坦。中央縦線はやや長い。表面は鮫肌状で点刻様の凹みが散在し, 疎な剛毛をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{3}{8}$ 倍。側縁は中央部で深くえぐられ, その後方は膨らむ。背面には明瞭な点刻をそなえる。中央縦線は前端に幅広くなる。小孔斑は約 30 個の小孔からなり長三角形。小孔の前方のものは大きくなる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{2}{3}$ 倍。側縁は中央部で広がり, 後端近くでくびれ膨らむ。点列部は明瞭であるが疎な点刻列からなる。列間部はほとんど隆起せず後方に微細な点刻をそなえる。第 2, 4 列間部は基縁に達しない。第 1, 3, 5 列間部は基方で高まり, 基縁で連結する。後方では疎なやや長い毛をそなえる。

斜面部前方は高まり不規則な小点刻をそなえる。斜面部は急に截断され円形、後端はほぼ半分まで釣鐘形に凹み、会合線付近は更に長三角形に凹む。後側角はやや斜下方に延びる。周辺の龍骨状縁取りはやや低い。表面は圧せられ、ほとんど平滑、短毛と小点刻をわずかにそなえる。

雌の前胸背の点刻は雄より大きい。小孔斑は長卵形、約 100 個の小孔からなる。翅鞘はやや短く、斜面部前方の膨らみは小さくかつ弱い。第 3, 5 列間部は基方で強く高まり小顆粒をそなえる。斜面部は幅広い新月形。上、側縁は弱く隆起するが、会合線付近は弱く凹む。表面は鮫肌状で小顆粒をそなえ粗造で短毛をそなえる。

寄生樹種：ラワン、ラミン、メランチ、アガチス、デイレニア、ソロモン材。

分 布：フィリピン、サラワク、カリマンタン、ソロモン群島。

Baiocis BROWNE 属

インドからオーストラリアまでの熱帯に分布する 11 種からなる属で輸入材からは 1 種が知られている。

種 の 記 載

***Baiocis anaticeps* SCHEDL**

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 207, 215~216 (♂, ♀)

体長は雄 2.0 mm, 雌 1.9 mm。黄褐色、複眼は黒色、翅鞘の先端は赤褐色。光沢はやや強い。

頭部はわずかに中高、縦に浅く幅広く凹む。触角着生部の下に弱い凹みをそなえる。表面は鮫肌状、不明瞭に点刻される。前頭と頭蓋の境には両複眼間の内側から弧状になった龍骨状突起をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{2}{3}$ 倍。側縁は中央部が深くえぐられ、その前角は角ばり縁取られ、後方は強く膨らむ。表面は不明瞭に点刻される。前縁には毛の生じた小点刻を疎な列状に生ずる。中央縦線は非常に長く中央部より少し前方まで延びて広がり、後端は後縁のはるか前方で終わる。

翅鞘の長さは幅の 3 倍に近い。側縁は中央部の前方まで平行し、その後弱く狭まり、後端近くでわずかに膨らむ。後縁はほとんど一直線で会合線部は凹む。点列部は不明瞭に点刻されて認めがたい。側縁、後縁近くには剛毛を生ずる。斜面部は斜め前方に傾斜し、細長い新月形、上縁は角ばり短毛をそなえる。後側角は *Platypi cupulati* のように後下方に突出し、その基部に剛毛を生ずる。

雌の頭部はほとんど平坦、中央縦線のみ浅く凹み、龍骨状突起を欠く。前胸背はやや短く、側縁の彎入部はやや深く、その前方は前に広がる。翅鞘は短く、側縁は後端で膨らまない。斜面部の上縁の角ばりは弱く、後側角の突起は短く鈍い。剛毛は後側角の突起部のみに生ずる。

寄生樹種：ラワン、メランチ、アガチス。

分 布：フィリピン、カリマンタン。

Periommatinae 亜科

この亜科は 2 属からなるが、輸入材からは *Spathidicerus* 1 属が発見されている。

***Spathidicerus* CHAPUIS 属**

この属はジャバからニューギニアにかけ 3 種が知られているが、輸入材からは次の 1 種が採集されている。

種 の 記 載

Spathidicerus nobilis CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 42, 315 (♂); SCHEDL, 1962, Ent. Arb. Mus. Frey, 13: 73, 78 (♀)
体長は雄 8.4~8.5 mm。黒褐色ないし黒色。光沢は強い。

頭部は中高，中央縦線は欠き，浅いが幅広く凹む。光沢は強い。下方には大きな点刻をそなえ，複眼の内側には長い剛毛をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{3}{7}$ 倍。側縁は後半において弱く弧状に浅くえぐられる。表面は前縁に剛毛の生じた疎な大きな点刻列と，後方 $1/3$ に楕円形の小孔状の点刻をそなえる。中央縦線は欠く。小楯板は背面からほとんど見えない。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{3}{4}$ 倍。前縁は第 5 列間部付近でえぐられる。側縁は後部に広がり，後端近くで狭まる。点列部は深い細溝からなる。第 1, 2, 3 点列部は基縁に達せず消失する。列間部は幅広くほとんど点刻を欠く，第 3 列間部は基方で広がり，弱く隆起し，2~3 の弱い瓦状片をそなえる。後端において第 1 列間部は丸く徐々に斜面部に移行し，第 2 列間部は短く後方に突出する。第 3 列間部の後端は強く突出し内方に弱く弯曲する。第 7~9 列間部は共通のやや短い突起となって終わり，その下方には内方に弯曲した強大な突起をそなえる。斜面部の後縁は弧状に凹むが会合線部は弱く山形に突出する。表面は会合線に沿って弱く隆起し，後方は高まる。点刻は欠く。

寄生樹種：

分 布：ニューギニア。

Diaporinae 亜科

この亜科は *Diapus*, *Diacavus* の 2 属が知られていて，いずれも輸入材から発見されている。この亜科にみられる雌の大腿の突起や頭部の毛房は脱落するらしく，これらを欠く個体もある。

属 の 検 索 表

1. 触角は両性とも複眼の内下方に着生する。小楯板は多くは沈む。前頭は *D. quadrispinatus*, *D. pendleburyi* を除き毛房を欠く。……………*Diapus* CHAPUIS
- 触角は雄では複眼の内下方に着生し，雌では複眼の半方より内上方に着生する。前頭は雌では常に曲がった毛房をそなえる。小楯板は雌雄ともに大きく高い。……………*Diacavus* SCHEDL

Diapus CHAPUIS 属

種の検索表（雄）

1. 前胸背の中央縦線基部両側には各 1~2 個の孔をそなえる。…………… 2
- 前胸背の中央縦線基部両側に横溝をそなえるか，小点刻群よりなる横斑をそなえる。…………… 3
2. 体は大きい (3.3~3.8 mm)。翅鞘先端の第 2 葉片状突起は第 1, 3 のものと同じ長さかわずかに短い。…………… *Diapus quadrispinatus* SCHEDL
- 体は小さい (2.8~3.5 mm)。翅鞘先端の第 2 葉片状突起は第 1, 3 のものより明らかに短い。…………… *Diapus pendleburyi* SCHEDL

3. 翅鞘の列間部は斜面部の前方で交互に高くなる。第 2, 3 列間部には瘤起か突起をそなえる。… 4
 — 翅鞘の列間部は斜面部の前方で高まらない。第 2, 3 列間部に突起はなく急に傾斜する。…… 5
4. 体は大きい (2.3~2.8 mm)。翅鞘は斜面部の上方から後方へ突出する長三角形の 4 突起をそなえる。斜面部の第 2 列間部先端にはやや長い突起をそなえる。前胸背は中央においてほとんど凹まない。前頭には龍骨状の中央縦線をそなえる。…………… *Diapus quinquispinatus* CHAPUIS
 — 体は小さい (1.4 mm 内外)。翅鞘は斜面部の上方から後方へ突出する瘤状の 3 突起をそなえ、更にその外方に長三角形の 1 突起をそなえる。前胸背の中央は心臓形に浅く凹む。前頭には龍骨状突起を欠く。…………… *Diapus minutissimus* SCHEDL
5. 前胸背の基部近くには溝状の mycetongia をそなえる。翅鞘の斜面部はゆるく傾斜し上方から見え、中央には横に長い瘤起をそなえ、表面は中高。側縁には突起をそなえない。体長は 1.8~2.0 mm。…………… *Diapus pusillimus* CHAPUIS
 — 前胸背の基部近くには横に並んだ不規則な大きさの小孔よりなる mycetongia をそなえる。翅鞘の斜面部は急に傾斜し上方から見えず、表面は凹み、側縁には 1 突起をそなえる。体長は 2.7~3.2 mm。…………… *Diapus truncatus* NIJIMA et MURAYAMA

種 の 記 載

Diapus quadrispinatus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 218~219 (♂, ♀)

体長は雄 3.1~3.6 mm, 雌 3.5 mm。黄褐色, 頭部, 前胸背, 翅鞘先端は赤褐色ないし暗褐色, 複眼は黒色。光沢はやや強い。

頭部はわずかに隆起し, 中央縦線はやや長く弱く凹む。表面は鮫肌状, 明瞭な点刻と剛毛を疎にそなえる。

前胸背の長さは幅よりわずかに大きい。側縁は前方 1/3 で深くえぐられる。背面は微細に点刻される。中央縦線は短く, 後方は基縁に達せず側方に各 1 個の孔をそなえる。小楯板は沈む。

翅鞘の長さは幅の約 1 1/7 倍。側縁はわずかに後方に広がる。点列部は後方を除き不明瞭な浅い点列からなる。第 2, 3 点列部は基方で凹む。偶数の列間部は後方で広がり弱く隆起し, 長三角形の尖った葉片状突起となり終わる。第 6 列間部の突起は外方に小突起をそなえる。斜面部は新月形で幅狭い。側縁にあたる第 9 列間部には小刺をそなえる。腹部第 5 節は深く凹む。

雌の頭部はほぼ平坦, 中央縦線に沿って浅く凹み, 触角着生部の下方から前顔にかけて長く内方に彎曲した毛房をそなえる。点刻は雄のものより細かい。鏡検しえた標本では大腿の突起を欠く。前胸背の中央縦線は基部に達する。翅鞘の点列部の点刻はより明瞭。第 1, 2, 4 列間部は基半部で隆起する。各翅鞘の後縁は丸まる。腹部第 5 節は凹まない。

寄生樹種: ラワン。

分 布: フィリピン。

D. pendleburyi と共に雌の大腿には突起を欠き, 前顔には毛房をそなえ, 前胸背中央縦線側方には 1~

2 個の小孔をそなえる。また、翅鞘斜面部が狭く、上縁の突起は葉片状で *Diacavus* 属に近い形態をそなえるが、雌の触角が下方に着生することによって異なる。

Diapus pendleburyi SCHEDL

SCHEDL, 1936, Journ. Fed. Mal. St. Mus., 18 : 18 (♂); SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 218 (♀)

体長は雄 2.8~3.5 mm, 雌 2.8~3.1 mm。茶褐色ないし赤褐色, 翅鞘は先端を除き淡色。光沢はやや強い。

頭部はわずかに隆起し, 中央縦線はわずかに隆起し, 中央部は楕円形に凹む。表面は鮫肌状, 疎に点刻されるが, 下方のものほど大きくなる。

前胸背の長さは幅よりわずかに大きい。側縁は基方 1/3 で強くえぐられる。背面は微細な点刻を疎にそなえる。中央縦線は短く, 基縁に達しない。基部には孔を 1 対そなえる。

翅鞘の長さは幅の $1\frac{7}{8}$ 倍。側縁は後方に広がる。第 1 点列部は狭い条溝となり, 第 2 点列部は大きい点刻を疎にそなえる。他の点列部は不明瞭。第 2, 4, 6, 8 列間部は後方で高まり, *D. quinquespinitus* より細長い長三角形の葉片状突起で終わる。第 4, 8 列間部の突起は他のものより明らかに短い。斜面部は新月形で幅狭く, 外縁に長い刺毛をそなえる。腹部第 5 節は深く凹む。

雌の頭部の前顔両側には下方に弯曲する長い毛房をそなえる。中央縦線は基縁に達し, 両側に各 2 個の孔をそなえる。翅鞘基部は縦の幅広い凹みをそなえる。各翅鞘の後縁は丸まる。斜面部は幅狭い。腹部第 5 節は凹まない。

寄生樹種: ラワン, アピトン, クルイン。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, マラヤ, スマトラ, カンボジア, アッサム, インド。

Diapus quinquespinitus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., pp. 44, 335~335 (♂, ♀)

体長は雄 2.3~2.8 mm, 雌 2.5~3.0 mm。暗赤褐色, 複眼は黒色。光沢はやや強い。

頭部はほとんど平坦, 前顔の両側に浅い凹みをそなえる。中央縦線は長く, 強く隆起するが上方で消失し, 上下に 2 分される。下方の中央縦線の両側は隆起する。表面は鮫肌状, やや明瞭な点刻を疎に, 頭頂には大きな点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅よりやや大きい。側縁は中央部の前方でえぐられる。背面の点刻は不明瞭であるが, 前縁には大きな点刻を密布し, 微細な横皺をそなえる。中央縦線は短く, 基縁に達し, 両側に弱く弧状をなした横溝とその前方に小孔列をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{3}{4}$ 倍。側縁はほとんど平行。第 1, 2 点列部はほぼ条溝をなし, 他の点列部は点列であるが後方では条溝となる。第 1 列間部は幅狭く基半部で広がり, 点刻と基部に条溝をそなえる。第 1, 3, 5 列間部は後方で細くなり短く終わるが, 第 2, 4, 6 列間部は後方で隆起し, 長く突出した厚い突起となって終わる。斜面部はやや幅広い新月形で小顆粒をそなえ, 外縁には長い刺と会合線両側に 1 個の長い刺をそなえる。腹部第 5 節は凹む。

雌の前顔は幅広く凹む。大腮前面には内方に弯曲した牛角状突起をそなえる。前胸背はやや細長く, 前縁の点刻は小さい。点列部は点列からなりほとんど凹まない。第 1 列間部には条溝を欠く。各翅鞘の後縁

は丸まり，会合線両側は圧せられる。

寄生樹種：ラワン。

分 布：支那（台湾），フィリピン，サラワク，セレベス，ビルマ，トンキン，マラヤ，スマトラ，ジャワ，ニューギニア，オーストラリア，ソロモン群島，フィジー島，サモア，インド，セイロン，アフリカ。

Diapus minutissimus SCHEDL

SCHEDL, 1969, Kontyû, 37(2) : 219 (♂, ♀)

体長は雄 1.4 mm, 雌 1.5 mm。黄褐色，頭部，前胸背，翅鞘の前縁と後方は赤褐色。光沢はやや強い。

頭部は弱く中高，中央部はかすかに凹む。中央縦線は短く，下端がわずかに隆起する。表面は微細な鮫肌状。

前胸背の長さは幅より少し大きい。側縁は前半で深くえぐられる。背面は中央部で弱く横に凹み，表面は微細な鮫肌状，前縁と後縁付近は明瞭な点刻と剛毛をそなえ，中央部にも短い剛毛をそなえる。中央縦線は前方に弱く広がり，後方は基縁に達する。基部前方には剛毛を有する横溝をそなえる。横溝の前縁，後縁は細かな波状をなす。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{6}{7}$ 倍。前縁は薄い龍骨状突起をそなえ，上反する。側縁は中央部が幅広く，前後に狭まる。点列部は後方で狭い溝状をなすが，前方では不明瞭。列間部は微細な鮫肌状，第 2, 4, 6 列間部は後方で高まる。第 1, 3, 5 列間部は高まらず単に狭まる。後縁は龍骨状となるが細かい凹凸があり長毛を疎にそなえる。会合線は凹む。斜面部は幅狭く凹み，光沢は強い。

雌の大腸基部には上方に弯曲したへら状の突起をそなえる。触角の柄節には長い毛房を有する。前胸背は雄より細長い。翅鞘の前縁には龍骨状突起を欠く。点列部はより明瞭，前方は明らかに凹む。列間部は交互に短毛列を有する。後方は点列部を欠き，均一に隆起する。会合線部はより幅広く圧せられる。斜面部は背面から徐々に丸くなり，幅は狭い。

寄生樹種：ラワン，カプール。

分 布：サバ，カリマンタン，スマトラ。

Diapus pusillimus CHAPUIS

CHAPUIS, 1865, Monogr. Platyp., 44 : 335~336 (♂, ♀)

体長は雄 1.8~2.0 mm, 雌 2.3~2.5 mm。黄褐色，頭部，前胸背，翅鞘の前縁，後半部は赤褐色，複眼は黒色。光沢はやや強い。

頭部は平坦かわずかに凹む。中央縦線は長く，ほぼ口縁に達し細く隆起する。表面は微細な鮫肌状，前顔には浅いが大きな点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁は前方でえぐられ，その後方は弧状をなして膨らむ。背面は微細な点刻をそなえ，前縁と後縁近くは鮫肌状をなす。中央縦線は長く基縁に達し，側方に剛毛の生じた横溝をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{3}{4}$ 倍。基縁は山形をなした龍骨状で軽く上反するが小楯板の両側から深く切れ

込む。側縁は中央で幅広くなる。第1～2点列部は狭い条溝をなすが、他の点列部は基方、後方近くで点条ないし条溝となる。列間部は微細に粗造となる。後縁近くは幅広く、帯状に弱く隆起し、不規則な微細点刻をそなえる。後縁は突起を欠き、波状の弱い龍骨状、剛毛を疎生する。会合線付近は細長く前方に凹圧される。斜面部は幅狭く、中高で光沢強く、数個の剛毛の生じた小顆粒をそなえる。腹部の第5節は円く凹む。

雌の頭部の中央縦線はやや長く上方に延びる。大腮基部には内方に曲がった長い牛角状の突起をそなえる。前胸背は雄より細長く、側縁の湾入部は強い。翅鞘はやや長く、基縁は上反しない。側縁は後方で丸く狭まる。後方は微細な点刻のほかに明瞭な点刻を疎にそなえる。後縁は波状をなし、会合線部は凹む。龍骨状突起を欠く。斜面部は幅狭く中高で鮫肌状。腹部第5節は凹まずほとんど平坦。

寄生樹種：ラワン、ガバス材、セラヤ、ジョンコン、サラワク材、メラランチ、カプール、ニューギニア材、*Calophyllum*, *Dellenia*, オーストラリア・ウォルナット。

分 布：フィリピン、サバ、サラワク、カリマンタン、スマトラ、マラヤ、カンボジア、セレベス、モルッカ群島、ジャバ、ニューブリテン、ソロモン群島、オーストラリア、カロリン群島、サモア、アッサム、マダガスカル、アフリカ。

Diapus truncatus NIIJIMA et MURAYAMA

NIIJIMA et MURAYAMA, 1934, Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., 35: 143~145 (♂, ♀)

体長は雄 2.7~3.2 mm, 雌 2.3~2.4 mm。茶褐色, 頭部, 前胸背, 翅鞘の後方は暗褐色, 複眼は黒色。光沢はやや強い。

頭部はほとんど平坦か中央部でわずかに凹む。中央縦線は短く隆起する。表面は鮫肌状, 前縁には明瞭な点刻をそなえる。中央縦線は前方でやや幅広くなり, その基方には鱗毛を持った横位の小孔群をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{4}{5}$ 倍。側縁は中央部が広がり, 後方に弱く狭まる。背面は斜面部前方で高まり, ほぼ一直線に截断されるが会合線付近は凹む。点列部は点条をなすが後方で消失する。第1点列部はやや深く凹む。列間部は鮫肌状。第2列間部は高まり, 後方に明瞭な点刻をそなえる。斜面部は細長い新月形, 光沢強く凹む。側下方には鈍い突起をそなえる。腹部第5節は丸く凹む。

雌の大腮には先端が截断されたへら状の突起をそなえる。触角の柄節には長毛を生ずる。前胸背は雄よりわずかに細長く, 基方の小孔は数が多い。翅鞘の第2列間部は基方に条溝をそなえる。斜面部は前方で弱く傾斜し, 幅狭い。

寄生樹種：台湾産広葉樹。

分 布：支那（台湾）。

Diacavus SCHEDL 属

種の検索表（雄）

1. 翅鞘の後端には3個の葉片状突起をそなえる。…………… 2
 - 翅鞘の後端には5個の葉片状突起をそなえる。…………… 4

2. 翅鞘の第 2 列間部の葉片突起は先端で尖らず平らに截断される。翅鞘はやや幅広く、幅は長さの $1/2$ より大きい。体は 2.4 mm より大きい。…………… 3
- 翅鞘の第 2 列間部の葉片突起は先端で尖る。前胸背の孔は 3～4 個。翅鞘は細長く、幅は長さのほぼ $1/2$ 倍。体は一般に小さい (2.2～2.5 mm)。…………… *Diacavus tenellus* SCHEDL
3. 体は大きい (3.0～3.4 mm)。前胸背の孔は 3～5 個。翅鞘の点列部には短毛をそなえる。前頭の龍骨状突起は長く延びる。…………… *Diacavus quadrioveolatus* SCHEDL
- 体は小さい (2.5～3.0 mm *D. compactus dubiosus* SCHEDL では 2.4 mm)。前胸背の孔は 2 個。翅鞘の点列部に短毛をそなえない。前頭の龍骨状突起は短い。…………… *Diacavus compactus* SCHEDL
4. 体は 4.1 mm 以上。翅鞘の基半部は褐色ないし濃黄褐色、点列部は明瞭、列間部は弱く隆起する。…………… 5
- 体は 3.0 mm 以下。翅鞘の基半部は淡黄褐色、点列部は不明瞭、列間部は隆起しない。…………… 6
5. 腹部第 5 節の正中線は後方 $2/3$ が隆起し、その両側は中央近くから基方にかけ隆起する。前胸背の孔は 7～10 個。体長は 4.1～5.1 mm。…………… *Diacavus decemspinatus* SCHEDL
- 腹部第 5 節はほぼ均一に凹み、隆起部を欠く。前胸背の孔は 4～8 個。体長は 4.1～4.3 mm。…………… *Diacavus biporus* SCHEDL
6. 前胸背の孔は 4 個。体長は 2.8～3.0 mm。…………… *Diacavus philippinensis* SCHEDL
- 前胸背の孔を欠く。体長は 2.6～2.8 mm。…………… *Diacavus abdominalis* SCHEDL

Diacavus tenellus SCHEDL

SCHEDL, 1966, Kontyû, 34 : 34, 42～43 (♂, ♀)

体長は雄 2.2～2.5 mm, 雌 2.3～2.6 mm。黄褐色ないし赤褐色。複眼は黒色。光沢は強い。

頭部は弱い中高, 中央縦線は短く隆起するが, その周辺は凹む。表面は鮫肌状, 細点刻とやや長い剛毛を疎にそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{8}$ 倍。側縁は前方で深くえぐられ, その後方は膨らむ。背面は微細な鮫肌状, 細点刻を疎布する。中央縦線はやや短く, 前端は T 字形に分岐し, 後方は基縁に達し, 左右に各 1～2 個の孔をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。基縁は龍骨状に隆起する。側縁は中央部の前方で最大幅となり前後に狭まる。点列部は浅いが大きい点列からなり, 後方ではやや深く凹む。列間部は微細な鮫肌状, 第 1, 3, 5 列間部は後方で狭まり消失する。第 2, 4 列間部は剛毛列をはなはだ疎にそなえ, 後方では鈍い三角形の葉片状突起となる。第 6 列間部から外方のものは 1 個の葉片状突起となり, いずれの突起も剛毛をそなえる。その剛毛の中の 1～2 本は長く内方に曲がる。腹部第 4 節は薄膜を欠き, 第 5 節は丸く凹み, 表面に縦皺をそなえ, 周縁には長毛をそなえる。

雌の頭部は複眼の内方に厚い毛房をそなえる。これは前方に長く延び, 先端は内下方に曲がる。前顔の前縁左右にはやや短い上方に曲がる毛房をそなえる。中央縦線は上方の毛房間の上方まで延びる。触角は上方の毛房の上に着生する。前胸背はやや細長い。中央縦線の基方左右に 2～3 個の孔をそなえる。翅鞘

はわずかに長く、基縁には龍骨状突起を欠く。点列部は後方で凹まず、疎な点刻のみ認められる。腹部第5節は中高、縦に凹む。

寄生樹種：ラワン、ペデク。

分 布：フィリピン、カンボジア。

Diacavus quadrioveolatus SCHEDL

SCHEDL, 1970, Kontyû, 38(4) : 369~370 (♂)

体長は雄 3.1~3.4 mm, 雌 3.3~3.6 mm。黄褐色, 複眼は黒色, 頭部, 前胸背は茶褐色。光沢は強い。

頭部は弱く中高, 前顔は弱く隆起する。中央縦線はやや長く細く隆起する。表面は鮫肌状, 剛毛を疎布し, 上方には明瞭な点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は前方でやや深くえぐられ, その後方は強く膨らむ。背面は微細な鮫肌状, 側方には細かい点刻をそなえる。前縁には小点刻列と剛毛をそなえる。中央縦線は短く, 前端は2分岐し, 後方は基縁に達し, 両側に各3~4個の孔をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{5}{6}$ 倍。基縁は龍骨状隆起をそなえる。側縁は後方に広がる。点列部は点条となり凹み, 微毛をそなえるが, 中央部では弱まる。列間部は微細な鮫肌状, ほとんど点刻は認められない。第1, 3, 5列間部は後方で狭まる。第2, 4列間部は後方で丸く葉片状に突出し, その外方に幅広い葉状突起と少し短い葉状突起をそなえる。いずれの突起も下面に剛毛をそなえ, 側方のものを除き突起には長い剛毛を有する。腹部第4節の後縁には薄膜状の縁取りを欠く。第5節は丸いがやや深く凹み, 短い縦皺を有する。

雌の頭部は複眼内方に内下方に弯曲する長い毛房と前顔の大腮基部近くに上内方に弯曲する毛房をそなえる。触角は上方に着生する。前胸背の孔は片側に約5個。翅鞘の点列部は弱く後方で消失する。後縁には突起を欠き単純に丸まる。腹部は弱く中高で中央に縦の凹みをそなえ, 粗造で短毛を密生する。

寄生樹種：ラワン, セラヤ, サバ材。

分 布：サバ。

Diacavus compactus SCHEDL

SCHEDL, 1966, Kontyû, 34 : 34, 40~41 (♂, ♀)

体長は雄 2.5~3.0 mm, 雌 2.7~3.1 mm。赤褐色, 体下面は茶褐色, 複眼は黒色。光沢は強い。

頭部は弱い中高, 中央縦線は短いが強く隆起し, その側方は浅く凹む。表面は微細な鮫肌状, 小点刻と剛毛を疎布する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{6}$ 倍。側縁は前方でやや深くえぐられ, その後方は丸く膨らむ。中央縦線はやや短く, 前端は2分岐し, 基方は後縁に達し, その側方には各1~2個の孔を有する。表面は微細な鮫肌状, 小点刻をそなえる。前縁にはやや密な点刻と短毛を生ずる。

翅鞘の長さは幅の約2倍。基縁は弱く龍骨状に隆起する。側縁は後方に広がる。点列部は疎な点列よりなり, 基方後方で凹む。列間部は鮫肌状をなし, 第2, 4列間部は弱く隆起する。第1, 3, 5列間部は後方で狭まり消失する。第2, 4列間部は後方で葉片状に突出し, 第6列間部から側方も葉片状に突出す

る。腹部第 4 節には薄膜を欠く。第 5 節は深く凹み、縦皺とやや長い剛毛をそなえる。

雌の頭部は複眼内方から前方に延びる長い毛房をそなえ、その先端は内下方に彎曲する。前顔の大腮基部近くには内上方に曲がる毛房をそなえる。触角は上方の毛房の上に着生する。中央縦線は浅く凹み、前顔部では広く凹む。前胸背はやや短く、中央縦線の基部両側に各約 3 個の孔を有する。翅鞘の基縁には縦隆起を欠き、側縁は $1/3$ より後方から弱く狭まる。点列部は不明瞭。後縁は突起を欠き丸まる。腹部第 5 節は弱く中高で中央は縦に凹む。

寄生樹種：ラワン、セラヤ。

分 布：フィリピン、サバ、モルッカ群島。

フィリピンから同時に記載された亜種 *D. compactus dubiosus* SCHEDL は原種に比較して体が小さく (2.4 mm)、翅鞘の点刻がより疎である。

Diacavus decemspinatus SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 216 (♂); SCHEDL, 1966, Kontyû, 34 : 42 (♀)

体長は雄 4.1~5.2 mm, 雌 4.5~4.6 mm。赤褐色、複眼は黒色。光沢は強い。

頭部はほとんど平坦、触角着生部の内方から下方にかけて隆起する。中央縦線は長く、前顔では明らかな隆起源となる。表面は鮫肌状、点刻は不明瞭で剛毛を疎布する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。基縁中央は弱く突出して波状をなす。側縁はやや浅くえぐられ、その後方は強く膨らむ。背面は微細な鮫肌状、小点刻を疎布する。前縁には不規則な列状の点刻と剛毛をそなえる。基縁には短毛を密にそなえる。中央縦線は基縁に達し、左右に各 3~4 個の孔をそなえ、前端は分岐する。小楯板とその周辺には短毛を生ずる。

翅鞘の長さは幅の約 2 倍。基縁は弱く隆起する。側縁は後方に弱く狭まる。点列部は点条をなし明らかに凹み、微細な剛毛をそなえる。第 6 点列部より外方の点列部は後方で消失する。列間部は弱く隆起し、微細な鮫肌状、明瞭な点刻を疎にそなえる。第 1, 3, 4 列間部は基縁に達せず基方に点刻を密布する。第 1 列間部は基方に点条をそなえる。第 1, 3, 5 列間部は後方で狭まる。第 2, 4, 6 列間部の先端は葉片状突起となり不整型に截断される。それらの外方には同型の 2 突起をそなえる。腹部第 5 節は丸く深く凹み、縦隆起線をそなえ、表面は光沢を欠く、周辺前半は第 4 節から延びた薄膜におおわれ、長毛をそなえる。

雌の頭部は幅広く圧せられ、複眼内方に内側に彎曲した長い毛房をそなえる。前顔両側には上方に彎曲した毛房をそなえる。中央縦線は雄より長い。触角は上方に着生する。前胸背の孔は片側に約 18 個。翅鞘の後方は点列部が消失しごく弱く傾斜し、後縁は突起を欠き単純に丸まる。腹部は弱い中高で粗造、剛毛を密生する。

寄生樹種：ラワン。

分 布：フィリピン、ベトナム、マラヤ。

Diacavus biporus SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 219 (♂); BROWNE, 1961, Sarawak Mus. Journ., 10 : 318 (♀)

体長は雄 4.1~4.3 mm, 雌 4.2~4.4 mm。暗褐色, 複眼は黒色, 翅鞘は後方を残し淡黄褐色。触角, 肢は黄褐色, 体下面は黄褐色ないし暗褐色。光沢はやや強い。

頭部はほとんど平坦, 中央縦線は長く中央で凹む。表面は微細な鮫肌状をなし, 上方は浅いが明瞭な点刻をそなえ, 短毛を疎布する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{7}$ 倍。側縁は前方で浅くえぐられ, その後方は丸く膨らむ。背面は鮫肌状, 疎な小点刻をそなえ, 前縁には密な点刻と短毛を生ずる。中央縦線はやや短いが基縁に達し, 側方には各 1 個の孔を有する。

翅鞘の長さは幅の約 $1\frac{4}{5}$ 倍。基縁の後方は弱く隆起する。点列部は点刻が不明瞭であるが浅く凹んだ点条をなす。列間部は前方でわずかに隆起し, 鮫肌状, 第 4 列間部では疎な点刻が認められる。奇数の列間部は後方で狭まり消失する。第 2, 4, 6, 7, 8 列間部は後方で葉片状の突起となる。腹部第 4 節の後縁には薄膜状の縁取りをそなえ, 第 5 節は丸く凹み, 周辺の前半には長毛列を有する。

雌の頭部の中央縦線は弱いが長く細く隆起する。複眼の内方にはやや短い毛房をそなえ, その中央部の若干は長く内方に弯曲する。前顔側方には上方に弯曲した幅広い毛房をそなえる。触角は上側の毛房の上に着生する。前胸背は若干細く, 中央縦線の側方には各 13 個ぐらいの孔を密にそなえる。翅鞘の列間部には交互に短毛列をそなえ, 後縁は突起を欠き単純に丸まる。腹部第 4 節は薄膜を欠く, 第 5 節は中高で縦に浅く凹む。

寄生樹種: ラワン, サバラウンドロッグ, メランチ, パデック。

分 布: フィリピン, サバ, サラワク, カリマンタン, ベトナム, カンボジア, ビルマ, マラヤ, モルッカ群島。

Diacavus philippinensis SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5 : 216~217 (♂); SCHEDL, 1966, Kontyû, 34 : 4, 35, 41~42 (♀)

体長は雄 2.8~3.1 mm, 雌 2.8~3.1 mm。黄褐色, 複眼は黒色, 頭部, 前胸背, 翅鞘の基部, 後端は黒褐色。光沢はやや強い。

頭部はほとんど平坦, 中央縦線は長く断続的に隆起し, 中央縦線と触角着生部の間に短い縦隆起をそなえる。表面は微細な鮫肌状で短毛を生じ, 上方には小点刻をそなえる。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{1}{4}$ 倍。側縁は浅くえぐられ, その後方は丸く膨らむ。背面は微細な鮫肌状, 小点刻を疎にそなえるが側方, 基方ではやや密になる。前縁には点刻列と短毛をそなえる。中央縦線はやや短く, 前方で T 字形になり, 後方は基縁に達し, 側方には各 2~4 個の孔をそなえる。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{8}$ 倍。側方は後方に広がる。点列部は疎な点刻列からなり, 後方は凹む。列間部は鮫肌状。第 2 列間部は基方で第 3, 4 列間部と連絡し高まる。第 3 列間部は基方で低くなる。第 4 列間部は基方で狭まる。第 1, 3, 5 列間部は後方で狭まり消失する。各々の後縁には先端の截断された葉片状の 4 齒と外方に三角形の 1 葉片状突起をそなえる。腹部第 4 節の後縁は薄膜状に縁取られ, 第 5 節は強く凹み, 周辺の基半部には毛列を有する。

雌の複眼内方には厚い毛房があり, その上外方のものは長く内下方に弯曲する。前顔の大腮上部には内

上方に弯曲し、頭蓋に達する毛房を生ずる。触角は上方の毛房の上に着生する。前胸背側縁の弯曲部はやや深い。中央縦線の側方には各約 10 個の密な孔群をそなえる。翅鞘の点列部の点刻は雄より小さい。第 2 列間部から基縁にわたる隆起は幅広い。交互の列間部には疎な短毛の列をそなえる。後端は突起を欠き単純に丸まる。腹部第 4 節の薄膜を欠き、第 5 節は中高で中央で縦に凹む。

寄生樹種：ラワン、ソラン材、セラヤ、カプール、プディック、メランチ。

分 布：フィリピン、サバ、サラワク、カンボジア、マラヤ。

Diacavus abdominalis SCHEDL

SCHEDL, 1942, Kolonialforstl. Mitt., 5: 218 (♂, ♀)

体長は雄 2.6~2.8 mm, 雌 2.8~2.9 mm。淡褐色、頭部、前胸背、中・後胸腹板、翅鞘後方、腹部は黒褐色、複眼は黒色。光沢はやや強い。表面は微細な鮫肌状、上方には浅いが明瞭な点刻をそなえ、短毛を疎生する。

前胸背の長さは幅の約 $1\frac{3}{8}$ 倍。側縁は前方で浅くえぐられ、その後方は丸く膨らむ。背面は微細な鮫肌状、小点刻を疎布し、後方の点刻は大きくなる。前縁には小点刻列と毛列をそなえる。中央縦線は基縁に達し、前端は分岐し、側方に孔を欠く。

翅鞘の長さは幅の約 $2\frac{1}{7}$ 倍。側縁はほとんど平行する。背面は小楯板の両側において圧せられ、その外方から前縁にかけて弱く隆起する。点列部はほとんど不明瞭、後方突起部近くになってやや凹む。後縁の片側には 4 個の幅広い突起と外方に三角形の突起をそなえる。腹部第 4 節の後縁には薄膜をそなえ、第 5 節は深く凹み、前半周辺部には毛列をそなえる。

雌の頭部には複眼内方に内下方に弯曲した密な毛房と大腮基部の上方から生じた内上方に弯曲した長い毛房を有する。触角は上方の毛房の上に着生する。前胸背は短く、点刻は雄よりやや明瞭、中央縦線の側方には各 5~7 個の孔をそなえる。翅鞘は雄より短い。点列部の点刻はやや明瞭。後縁には突起を欠き丸まる。腹部第 4 節は薄膜を欠き、第 5 節は中高。

寄生樹種：ラワン、北ボルネオ材、セラヤ、クルイン、カプール、メランチ。

分 布：フィリピン、サバ、サラワク、カリマンタン、マラヤ、モルッカ群島。

文 献

- 1) 村山醸造：日本の南洋材輸入と植物防疫事業、大阪、58 pp. (1960)
- 2) 野淵 輝：輸入材のキクイムシ、森林防疫ニュース、15(9)：4~10, (1966)
- 3) 大野静男：検疫で発見された南洋材のキクイムシ、農林省植物防疫所植物検疫資料 2, 55 pp. (1962)
- 4) 佐藤 覚：輸入木材で発見されたキクイムシ類標本目録、植物研報、12(2)：1~57, (1975)
- 5) SCHEDL, K. E.: Pin-hole borers and bark-beetles intercepted from imported logs in Japanese ports, Kontyû, 34(1): 29~43, (1966)
- 6) —————: Bark-beetles and pin-hole borers intercepted from imported logs and seeds in Japanese ports II, Kontyû, 35(2): 119~129, (1967)
- 7) —————: Bark-beetles and pin-hole borers intercepted from imported logs in Japanese ports III, Kontyû, 37(2): 202~219, (1969)
- 8) —————: Bark-beetles and pin-hole borers intercepted from imported logs in Japanese

ports IV, Kontyû, 38(4): 358~370, (1970)

9) —————: Monographie der Familie Platypodidae, Coleoptera, Den Haag, 322 pp. (1972)

**Platypodidae found in Imported Tropical Timbers
from South East Asia and Others (Coleoptera)**

Akira NOBUCHI⁽¹⁾

Summary

Timber supplies are supplemented by importation from foreign countries in Japan. In 1974, an annual yield of imported tropical timber amounts to about 20,990,000 m³. It may raise to about 19 percent of all demand for timber. Numerous living larvae and adults of many species of the Platypodidae have been collected from imported timbers in Japanese ports. The chief damage by these beetles is due to the black-stained galleries (pin holes) made in the sapwood or heartwood of trees felled for timber. A fundamentally important problem for Japanese forestry is the introduction and establishment of these ambrosia beetles. Because of their secretive habits, these beetles are particularly well adapted to Japanese environment.

Yokohama Plant Protection has kindly permitted me to examine Mr. K. SATO's collection of the Platypodidae collected from tropical timbers, most of which were identified by Prof. Dr. Karl E. SCHEDL.

In South East Asia, the Platypodidae is one of the most complicated and difficult beetle groups to classify for the lack of a complete key to species. The present study is an attempt to make a tentative key to species of Platypodidae found in imported tropical timbers. Also notes on geographical distribution and host timbers are included. Recognized species in this paper are shown as Table 1. This study may be an important contribution not only to plant quarantine, but also to tropical forestry.

Table 1. Platypodidae collected from imported tropical timbers
in Japanese ports

Subfamilies	Genera	Species groups	Species
Crossotarsinae	<i>Crossotarsus</i>	<i>Crossotarsi genuini</i>	<i>C. lecontei</i> CHAPUIS <i>C. laratensis</i> BEESON <i>C. simplex</i> MURAYAMA
		<i>Crossotarsi ventricorni</i>	<i>C. nitens</i> CHAPUIS
		<i>Crossotarsi nitiduli</i>	<i>C. lacordairei</i> CHAPUIS
		<i>Crossotarsi coleoptrati</i>	<i>C. emancipatus</i> MURAYAMA
		<i>Crossotarsi alternante-depressi</i>	<i>C. octocostatus</i> SCHEDL
		<i>Crossotarsi subdepressi</i>	<i>C. rengetensis</i> NIJIMA et MURAYAMA
			<i>C. externedentatus</i> FAIRMAIRE
			<i>C. saltator</i> SCHEDL
			<i>P. hamatipennis</i> SCHEDL
			<i>P. quadrifissilis</i> SCHEDL
Platypodinae	<i>Platypus</i>	<i>Platypi bihamati</i>	<i>P. shoreanus bifurcus</i> SCHEDL
		<i>Platypi bi-cornuti</i>	<i>P. shoreanus mutilatus</i> SCHEDL
		<i>Platypi inaequali-costati</i>	<i>P. curtus</i> CHAPUIS
			<i>P. partitus</i> SCHEDL
		<i>Platypi hirtelli</i>	<i>P. signatus</i> CHAPUIS
		<i>Platypi sulcati</i>	<i>P. pahangensis</i> SCHEDL
			<i>P. terebrans</i> SCHEDL
			<i>P. porcellus</i> SCHEDL
			<i>P. apicalis</i> WHITE
			<i>P. setaceus</i> CHAPUIS
			<i>P. hystrix</i> SCHEDL
			<i>P. arduus</i> SCHEDL
			<i>P. nijimai</i> MURAYAMA
			<i>P. geminatus</i> CHAPUIS
			<i>P. jansonii</i> CHAPUIS
		<i>Platypi dorso-sulcati</i>	<i>P. australis</i> CHAPUIS
		<i>Platypi emarginati</i>	<i>P. planodeclivis</i> SCHEDL
			<i>P. ptochoides</i> SCHEDL
		<i>Platypi oxyuri</i>	<i>P. biflexuosus</i> SCHEDL
			<i>P. obscurus</i> SCHEDL
			<i>P. oneratus</i> SCHEDL
			<i>P. xylographus</i> SCHEDL
			<i>P. solidus</i> WALKER
		<i>Platypi lunati</i>	<i>P. subdepressus</i> SCHEDL
		<i>Platypi semidepressi</i>	<i>P. contaminatus</i> BLANDFORD
			<i>P. turcicus</i> SCHEDL
		<i>Platypi opaci-carinati</i>	<i>P. carbonescens</i> BEESON
		<i>Platypi signati</i>	<i>P. indicus</i> STROHMEYER
			<i>P. transformis</i> SCHEDL
		<i>Platypi truncatipenni</i>	<i>P. fallax</i> SCHEDL
		<i>Platypi cupulati</i>	<i>P. forficula</i> CHAPUIS
			<i>P. omega</i> SCHEDL

